

県内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成25年度県内遺跡試掘・確認調査

2 0 1 4

新潟県教育委員会

県内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成25年度県内遺跡試掘・確認調査

2 0 1 4

新潟県教育委員会

序

新潟県教育委員会では、これまで財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施してきた国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査を、本年度から直営の体制で行うこととしました。これに伴い、調査の成果は「新潟県埋蔵文化財調査報告書」の形で公表することとなり、本書はその第1冊目にあたります。

本年度の成果としては、これまで実態が不明であった関川村大内測遺跡が、縄文時代後期を中心とする時期の遺跡であることが明らかになった点などが挙げられます。また、一般国道8号柏崎バイパス柏崎市茨目地区では、昨年度に発見した丘江遺跡の一部と考えられる中世の遺構・遺物が検出され、遺跡の範囲が広がることが確認されました。茨目地区は来年度も調査を継続し、遺跡の範囲や規模を明らかにしていく予定です。

また、遺跡が存在しなかった地区においても、基本的な土層の堆積状況が確認されたことは、今後の周辺での調査に際して参考になるものと期待されます。

本書が、県内の埋蔵文化財保護行政の基礎資料として活用されるとともに、郷土の歴史に興味を持つ多くの方に手に取っていただければ幸いです。

最後になりますが、調査に際して多大な御協力と御援助を賜りました地元の市町村教育委員会、近隣住民各位、国土交通省北陸地方整備局及び各道路事務所に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成26年3月

新潟県教育委員会

教育長 高井盛雄

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県教育委員会（以下、「県教委」という。）が平成25年度に実施した埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）の記録である。
- 2 本事業は、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、県教委が調査主体となって実施した。
- 3 出土遺物及び調査・整理作業に係わる各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。
- 4 本事業に係る重機・作業員等の調査支援業務は株式会社帆勾組に委託した。また、遺物の実測・拓本の一部も同社が行った。
- 5 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 6 本書の執筆は、第II章4及び9を滝沢規朗が行ったほかは小野本敦が行った。位置図・土層柱状図・トレンチ位置図・遺構平面図の作成は工藤祐大が行った（いずれも所属は県教育庁文化行政課）。
- 7 調査の実施に際しては地元市町村教育委員会、近隣住民各位から多大な御理解・御協力を賜った。また、越中嶺口広口壺について相羽重徳氏（佐渡市世界遺産推進課）から御教示を受けた。記して感謝申し上げる。

目 次

第Ⅰ章 事業の概要

1 調査に至る経緯と体制	1
2 調査の概要	1

第Ⅱ章 試掘・確認調査の結果

1 一般国道113号鷹ノ巣道路関係（関川村大内淵地区試掘・確認調査）	3
2 一般国道7号新潟東港地区事故対策関係（聖籠町大夫興野地区試掘調査）	10
3 一般国道7号紫竹山道路・栗の木道路関係 (新潟市中央区紫竹山三丁目・西馬越～鐘三丁目間試掘調査)	12
4 一般国道49号阿賀野バイパス関係（阿賀野市月崎地区試掘・確認調査）	15
5 一般国道116号法花堂自転車歩行者道整備関係 (燕市吉田法花堂地区試掘調査)	19
6 一般国道49号揚川改良関係（阿賀町大牧地区試掘調査）	20
7 一般国道8号柏崎バイパス関係（柏崎市茨目地区試掘調査）	21
8 一般国道17号石打自転車歩行者道関係（南魚沼市下一日市地区試掘調査）	25
9 地域高規格道路上越三和道路関係（上越市鶴町地区試掘調査）	28
10 日本海沿岸東北自動車道関係（新潟市江南区西野地区試掘調査）	31
11 磐越自動車道付加車線施工関係（新潟市秋葉区下新地区試掘調査）	34
12 磐越自動車道付加車線施工関係（阿賀町五十島地区試掘調査）	36
＜引用・参考文献＞	37

第Ⅰ章 事業の概要

1 調査に至る経緯と体制

県教委では、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、主に国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）を行っている。平成24年度までは財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団に委託して調査を実施してきたが、本年度から県教委が直営で行うこととした。調査に係る体制は以下のとおりである。

総 括 本田 雄二（県教育庁文化行政課長）
管 理 石津 敦（県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導 澤田 敦（県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当 滝沢 規朗（県教育庁文化行政課専門調査員）
調査担当 小野本 敦（県教育庁文化行政課主任調査員）
調査員 工藤 祐大（県教育庁文化行政課職員）

2 調査の概要

本年度に行った調査は第1表・第2表、調査箇所は第1図のとおりである。ここでは試掘・確認調査の主な成果について述べる。

一般国道8号柏崎バイパス柏崎市茨目地区では、昨年度に発見した丘江遺跡の範囲が拡大することを確認した。来年度以降、未買収地の試掘調査を経て本調査必要面積を確定する予定である。

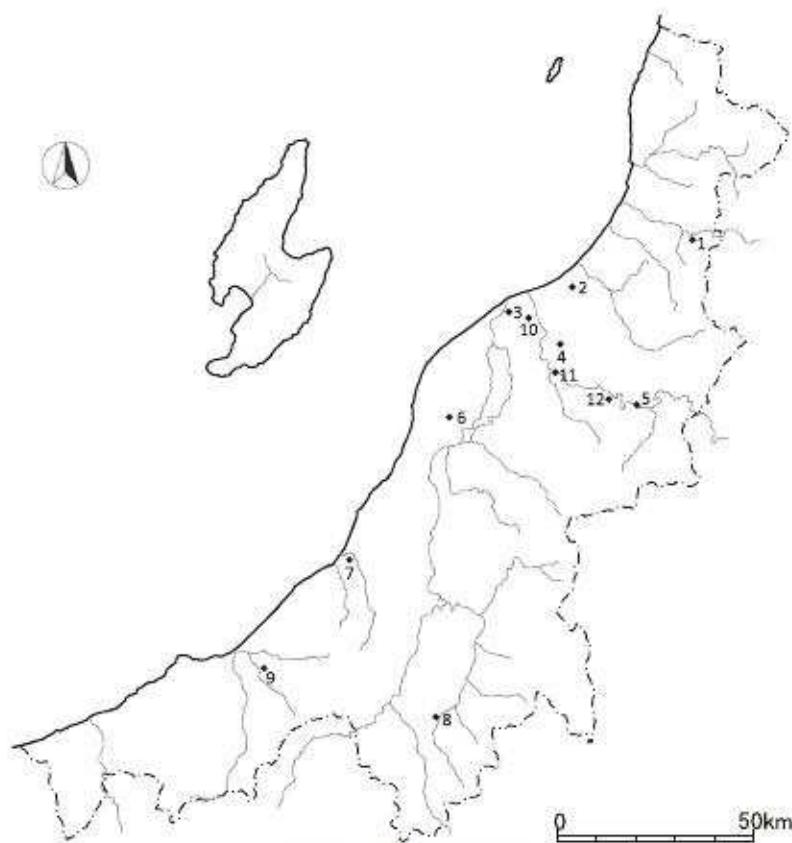
一般国道113号鷹ノ巣道路関川村大内淵地区では、周知の埋蔵文化財包蔵地である大内淵遺跡を調査した。縄文時代後期の土器とともに石器・剥片類が出土したことにより、これまで詳細が不明であった大内淵遺跡の一端を捉えることができた。

一般国道49号線阿賀野バイパス阿賀野市月崎地区では、昨年度に続き地下歩道建設予定地を調査し、中世の遺構・遺物を検出した。

一般国道7号紫竹山道路新潟市中央区紫竹山三丁目地区では、遺構・遺物は検出されなかったものの、昨年度までの調査成果と合わせて新潟砂丘第Ⅱ列4の状況が明らかになってきた。

事業者名	事業名	所在地・地区名	調査期間
国土交通省	羽越河川 7号勝木地区事故対策	村上市勝木	4月24日
	113号鷹ノ巣道路	関川村大字大内淵	4月24日
	日本海沿岸東北自動車道 村上市仲間町	村上市仲間町	9月27日
	7号朝日潟海道路 村上市川端～山形県境	村上市川端～山形県境	12月9日～11日
	高田河川 糸魚川地区橋梁架替	糸魚川市有間川地先	10月31日
		糸魚川市能生小泊地先	10月31日
		糸魚川市青海地先	10月31日
		糸魚川市歌連地先	10月31日
	妙高市坂口新田 ～二俣地先	妙高市坂口新田～二俣地先	11月28日

第1表 分布調査一覧



第1図 調査遺跡位置図

事業者名	事業名	地図番号	所在地・地区名	調査期間	調査※			調査結果			
					当初	実績	調査	本調査 必要範囲	時代	遺跡 名等	過構面
国土交通省	羽越河川一般国道113号虧ノ堀道路	1	関川村大字大内瀬	7月8日～7月17日、 10月28日～11月6日、 11月25日～26日	23,600	23,600	822.5	不要	繩文	◆六西湖	無
		実施：1件1か所				小計	23,600	23,600	822.5		
	一般国道7号新潟港東港地区事故対策	2	聖籠町大夫興野	10月8日～10月10日	9,500	1,567	92.9				
	一般国道7号紫竹山道路	3	新潟市中央区紫竹山三丁目地先	12月19日	300	300	10.4				
	一般国道7号栗ノ木道路	3	新潟市中央区西馬越～鐘三丁目間	12月19日～12月20日	1,300	307	23.2				
	一般国道49号阿賀野バイパス	4	阿賀野市月崎	11月11日～15日、18日～21日	100	100	90.5	不要	中世	◆山口野中	1
	一般国道49号湯川改良	5	阿賀野市大牧	5月15日	90	90	48.3				
	一般国道116号法花堂自転車歩行者道整備	6	燕市吉田法花堂	5月27日～29日	3,400	3,400	44.9				
長岡国道	実施：6件6か所				小計	14,690	5,764	266.73			
	一般国道8号柏崎八日バス	7	柏崎市茨目	7月25日～8月9日	25,200	20,609	605.5	未定	中世	◆丘江	1
	一般国道17号石打自転車歩行者道整備	8	南魚沼市下一日市	5月20日	5,080	1,780	46				
	実施：2件2か所				小計	30,276	22,389	651.5			
河高川田	上越三和道路	9	上越市大字鶴町	11月18日～11月21日	4,900	4,900	207	不要	中世	◆清冰田	1
	実施：1件1か所				小計	4,900	4,900	207			
	実施：10件10か所				中計	73,466	51,753	4,947.73			
新潟日本管理事務所	日本海沿岸東北自転車道	10	新潟市江南区西野	10月15日～18日、12月2日～13日	68,746	68,746	563.7				
	磐越自動車道付加車線工事	11	新潟市秋葉区下新	12月16日～18日	7,850	7,850	168				
	実施：2件3か所				小計	76,796	76,796	743.2			
	実施：12件13か所				合計	150,262	128,549	2,690.93	◆周知遺跡4		

第2表 試掘・確認調査一覧

※「当初」は事業者からの要望面積、「実績」は未買収地等を除く実質対象面積を示す。

第Ⅱ章 試掘・確認調査の結果

1 一般国道113号鷹ノ巣道路関係

おおうちぶち 関川村大内淵地区試掘・確認調査

(1) 立地と調査の概要

荒川左岸に広がる山地にあり、標高は72~75m前後である。現況は山林および一部畠地である。STA No62付近からNo90付近およびNo47付近から51付近を対象に48カ所のトレンチを設定した。なお、対象地が広大であることと工期の都合から全体を3区に分け（地点1：No76~No90、地点2：No62~No75、地点3：No47~No51）、7月8日から7月17日に地点1、10月28日から11月6日に地点2・3を調査した。また、地点2の27T~29Tで遺物が出土したため、11月25日・26日に47T・48Tを設定して遺跡の詳細な状況を確認した。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「小国」1:50,000原図 平成15年発行)

(2) 層序

ア 地点1

I層 表土層。

I①層 明褐色土層 (7.5YR3/2)。しまり弱い。

I②層 ①層よりやや明るい。しまりややあり。14Tで近現代の陶磁器が出土。

I③層 ②層よりやや明るい。

II層

II①層 明褐色土層 (7.5YR3/2)。シルト質でサラサラとした層。1T~9Tではこの層の直下が砾層となる。

II②層 軟質の白色礫を含む。

III層 14Tのみで確認。

III①層 明褐色土層。II層に類似する。

III②層 赤褐色土層。砂利を含む。酸化鉄が沈着している。

IV層 14Tのみで確認。

IV①層 青灰色シルト層

IV②層 同上。拳大の軟質の白色礫を含む。

V層 黒色土層 (1) (7.5YR2/2)。上下の層との境は明瞭。10T以降にのみ認められる。黒味が弱い箇所もあるが同一層と捉えた (14T~16T)。軟質の白色礫を含む。

VI層 褐色土層 (10YR4/4)。II層に類似するがより大粒の砂を多く含む。17T・18Tでは間に暗灰色の層が入る (VI'層)。21Tのみ、VI②層 (炭・砂利を含む)・VI③層 (炭を含む) に分層。

VII層 黒色土層 (2) (7.5YR2/2)。V層より大粒の礫 (拳-人頭大) を多く含む。

VIII層 明褐色土層。大小の軟質の白色礫を多く含む。

VII①層 7.5YR4/3。砂利を多量に含む。粘性強い。

VII②層 7.5YR6/6。上下の層より礫やや少ない。

VII③層 7.5YR6/6。礫を多く含む。

イ 地点2・地点3

I層 表土層。黒褐色 (10YR3/2)。I'層は暗褐色で炭を少量含む。I''は軟質の白色礫を少量含む。

地点3では旧水田を1層とした。

II層 暗褐色土を主体としIII層をブロック状に含む。27~29・32Tのみに確認でき、旧耕作土と考えられる。

III層 黄褐色ローム層 (10YR4/6~5/6)。4層に区分した。下層ほど砂質が強く、III④層はほぼ砂層となる。

IV層 黄褐色ローム層 (10YR5/6)。軟質の白色礫を多量に含む。地点2では親指大までの礫を含む層をIV①層、拳大までを含む層をIV②層に区分した。地点3ではIV②層とはほぼ同様のIV③層と、IV③層よりやや色調が暗く礫が少ないIV④層に区分した。

(3) 遺構

なし。

(4) 遺物

27T~29Tとその周辺を拡張した47T・48Tから土器・石器が出土した。

土器は87点である。施文の特徴を窺える5点を図化した(第10図)。1~3は細かなLR縄文を施す。2は縄文施文後に2条の並行沈線を横位に施し、沈線間の縄文を磨り消す。また、並行沈線より上位に円形の粘土粒を貼り付ける。4は撚糸文。5は斜位の条痕文と縄文を施す。条痕文の沈線間の砂粒の動きから、右下から左上へ向けて施文されたことがわかる。

2はいわゆる瘤付土器である。石川日出志氏は、新発田市中野遺跡の瘤付土器について、深鉢の入組文の帶状部の外形がレンズ型を呈する1類と帶状部の上下描線が平行線化して全体が横帯化した2類に分類し、それぞれを瘤付土器4段階区分〔高柳1988〕の第Ⅰ段階と第Ⅱ段階に位置付けた〔石川1997〕。これに従えば、本例は横帯化した平行線の様相から瘤付土器第Ⅱ段階に比定でき、縄文時代後期後葉という編年的位置が与えられる。なお、近隣の類例には元屋敷遺跡斜面部のⅢ5層出土の深鉢があり、元屋敷8期(後期後葉)に位置付けられている〔朝日村教育委員会2002:図版50の787など〕。

石器は179点である。材質は珪質頁岩が主体を占め、色調は灰色・黒色・褐色・半透明などがある。製品は円形搔器(6)・石匙(7)・不定形石器(8~11)以外は剥片類である。珪質頁岩にバラエティが認められる点は本遺跡から荒川を約2km遙上したカヤマチ遺跡(縄文時代早期)と共通する様相である〔新潟県教育委員会ほか2013〕。

(5) 調査結果と取扱い

遺物が出土した27T~29T・47T・48Tの周辺は大内測遺跡の範囲に相当する。土器・石器が少量出土したもの、遺構は検出されなかった。遺物の分布から推定される遺跡の範囲は、礫を多量に含むIV層の

堆積が認められない範囲と対応する。このことから、大内湖遺跡の範囲は比較的地層が安定した狭い平坦地に限定され、対象地外の北側へ続くものと考えられる。出土した土器のうち、最も時代的な特徴を反映する2は縄文時代後期後葉に位置付けられ、その他の出土土器も後期の所産として大過ないものである。

大内湖遺跡は新潟県埋蔵文化財包蔵地カードでは「縄文前～中期諸磯系流に属するともいわれている」とされているが、これまで発掘調査の機会はなく、実態が不明であった。今回の調査によって、大内湖遺跡の様相を解明する手がかりが得られたと言える。

なお、工事対象地にかかる大内湖遺跡の範囲は狭小であったため、今回をもって記録保存を完了した。従って、本発掘調査は不要である。



第2図 21T土層堆積断面図（北から）



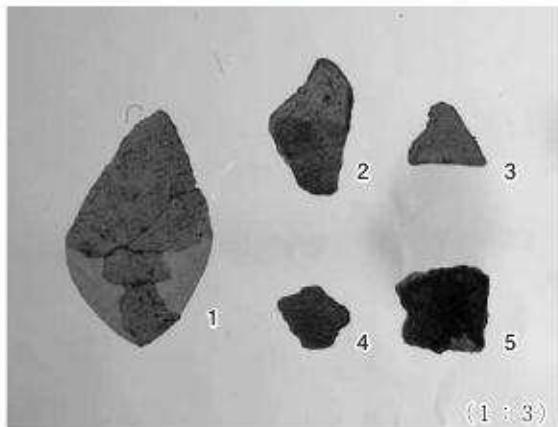
第3図 29T土層堆積断面図（東から）



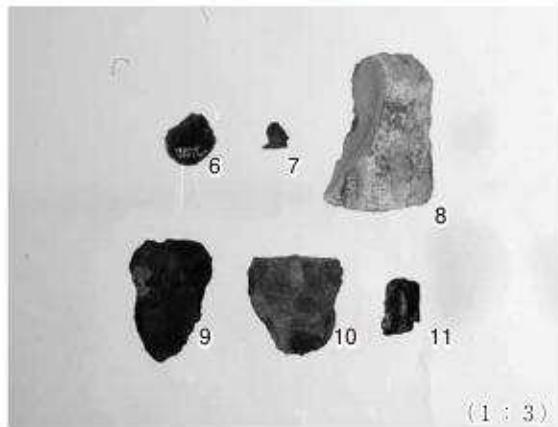
第4図 大内湖遺跡範囲（南から）



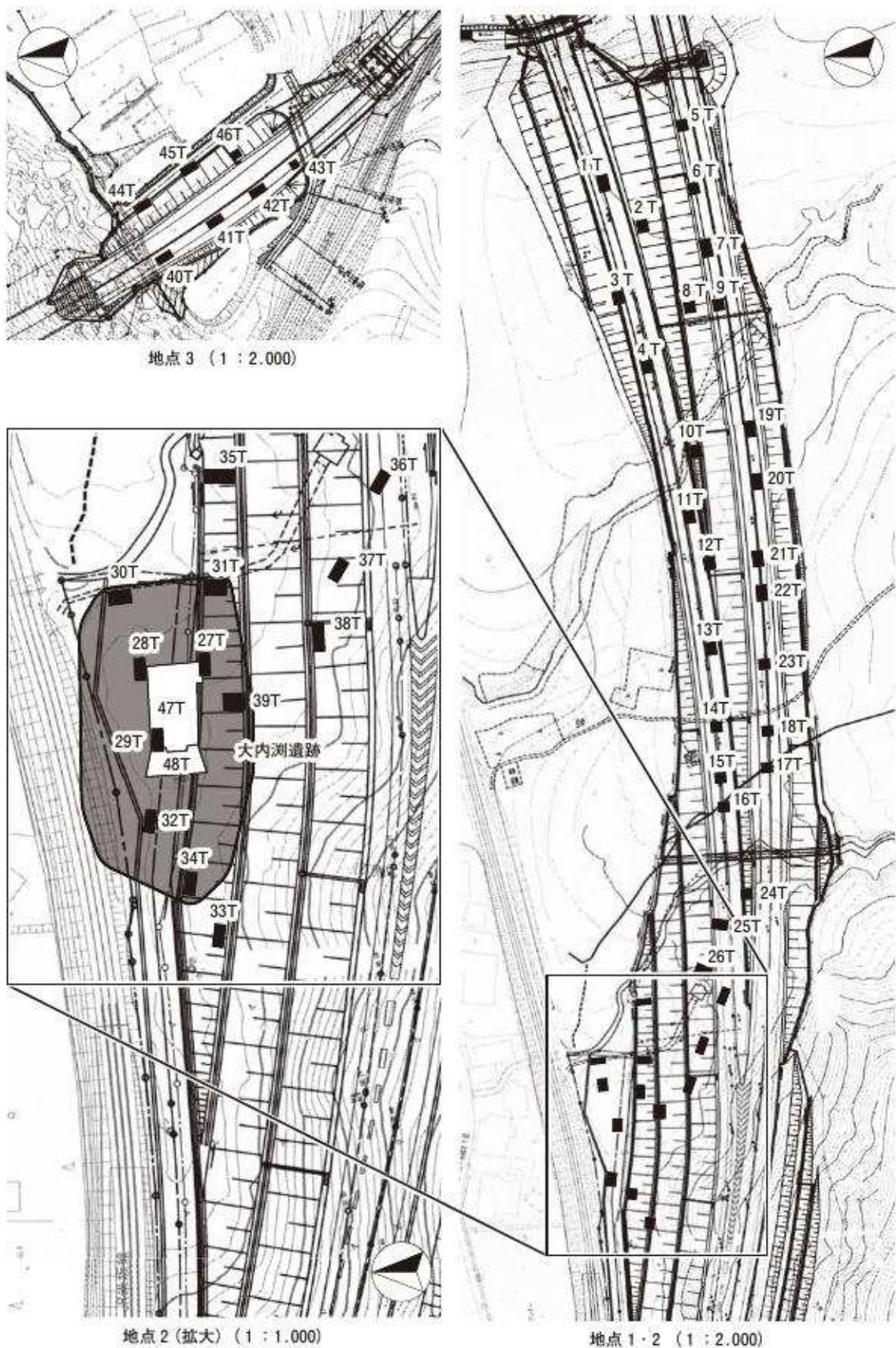
第5図 42T土層堆積断面図（南から）



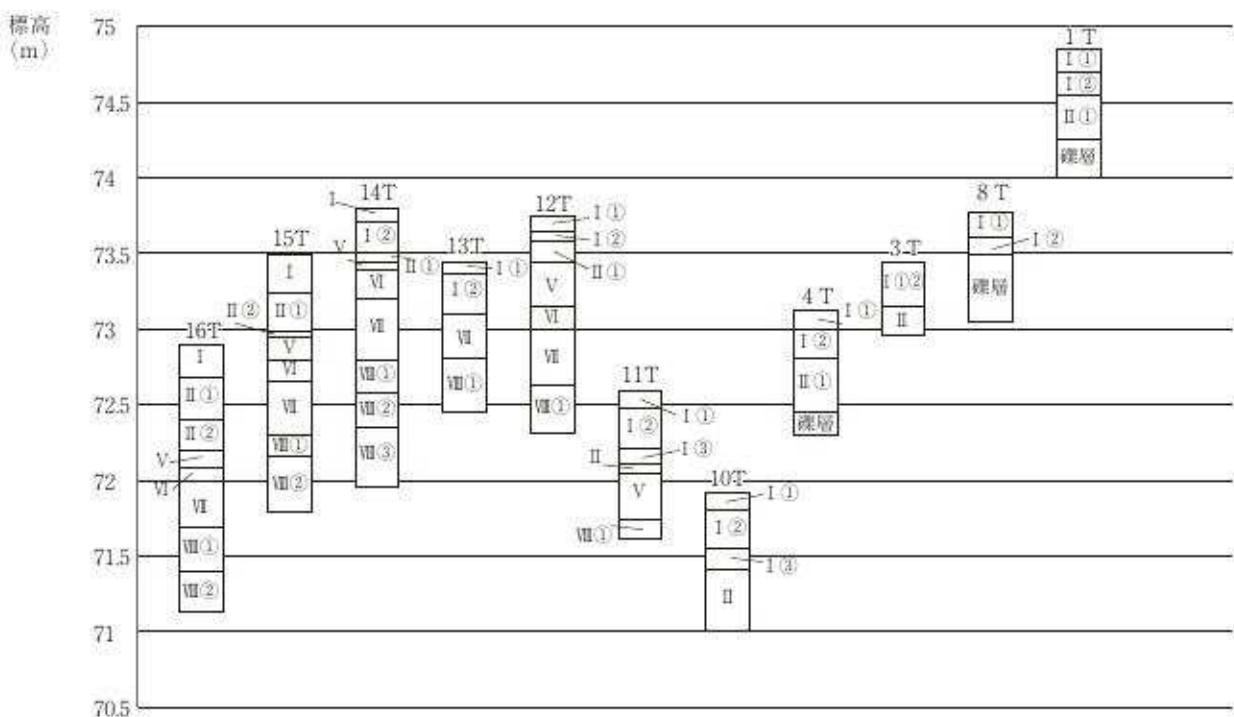
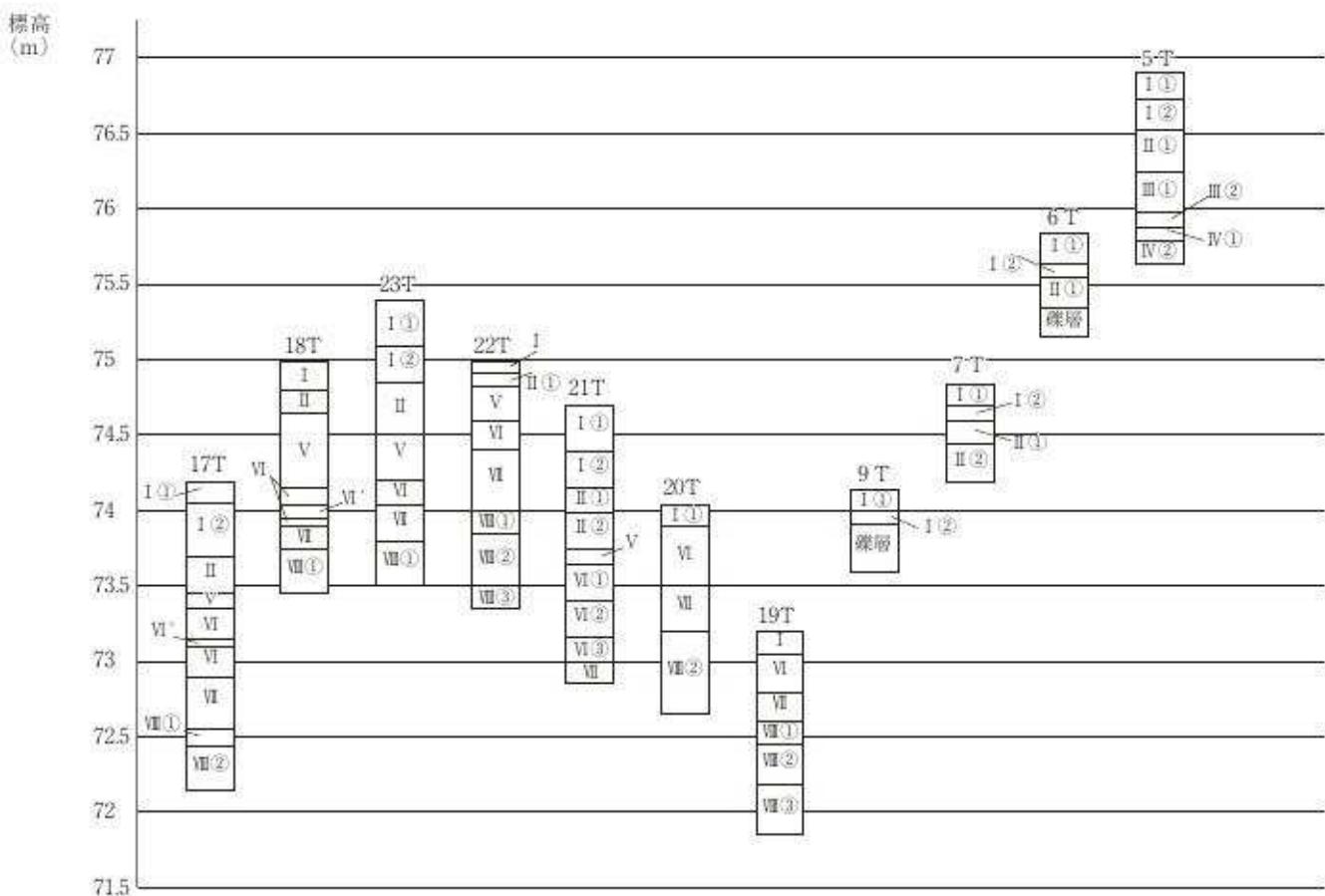
第6図 出土遺物（1）



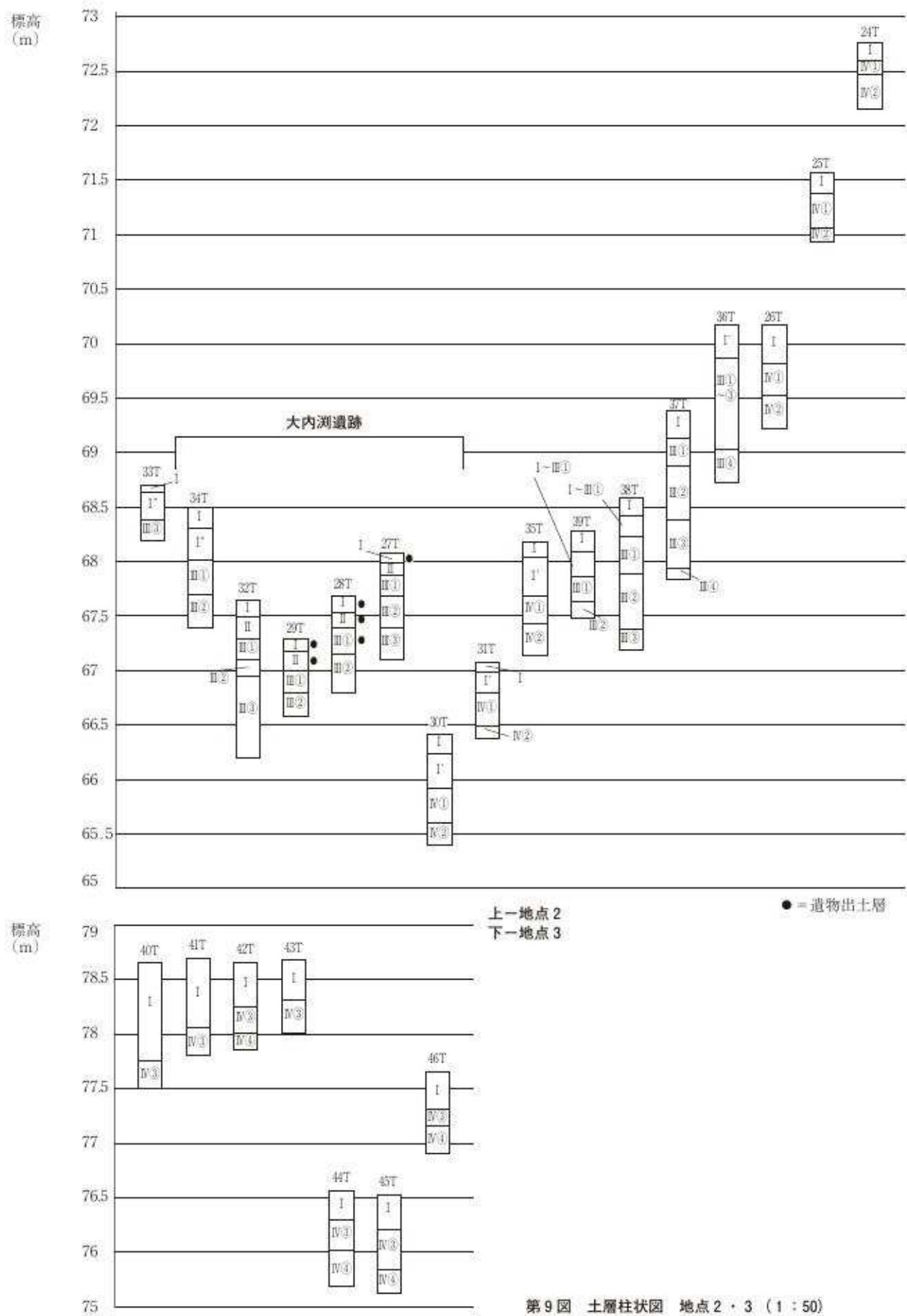
第7図 出土遺物（2）



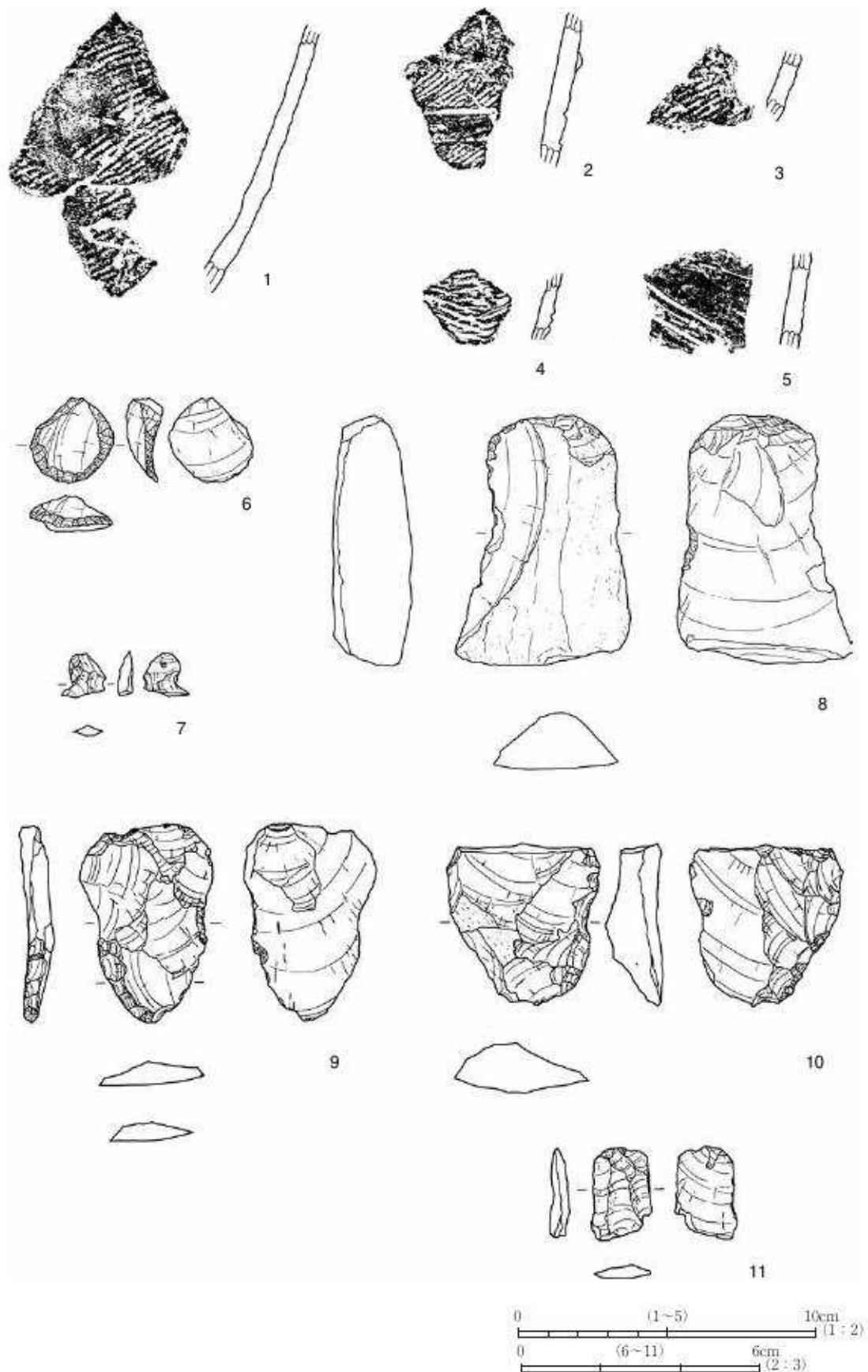
第8図 トレンチ位置図



第9図 土層柱状図 地点1 (1:50)



第9図 土層柱状図 地点2・3 (1:50)



第10図 出土遺物

2 一般国道7号新潟東港地区事故対策関係

だい ご こう や 聖籠町大夫興野地区試掘調査

(1) 立地

新潟砂丘列新砂丘第II列の末端から砂丘間低地。標高は2.4m前後である。

調査の概要

車道拡幅範囲を対象として計9か所のトレンチを設定した。

(2) 層序

I層 表土および黄褐色盛土。

II層 砂質盛土。

III層 黒褐色盛土。

IV層 ガツボ層。

V層 砂層。基盤層。下層ほど水分を多く含み、湧水する。3トレンチの遺構確認面。

(3) 遺構

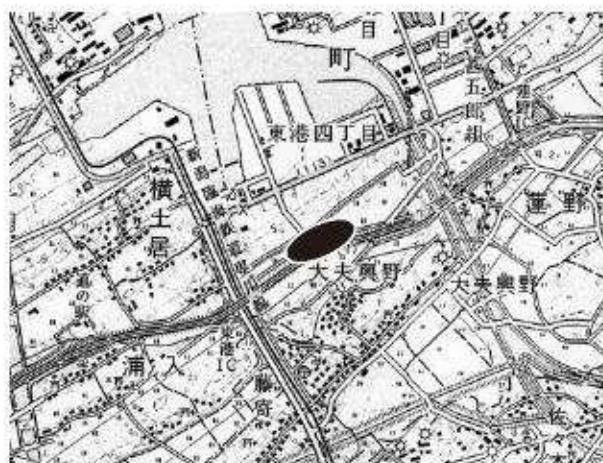
3TのV層上面でピット1基を検出した。直径50cmの円形で、深さは8cmである。覆土に炭化物を少量含む。平面規模に比して極めて浅いことから、V層上部は大きく削られているものと考えられる。

(4) 遺物

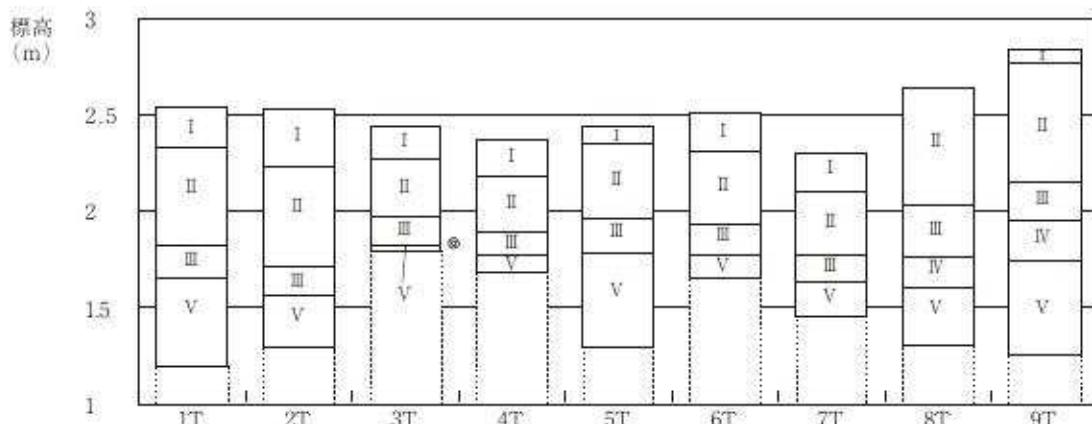
なし。

(5) 調査結果と取扱い

調査の結果、対象地の西側(1T～7T付近)が砂丘端部にかかることが確認された。しかし、3Tの状況から、畑地の造成によって旧地形が大きく改変されていることがわかる。また、ピットも中世以前の所産とは断定できない。よって、今回の対象地における本発掘調査は不要である。

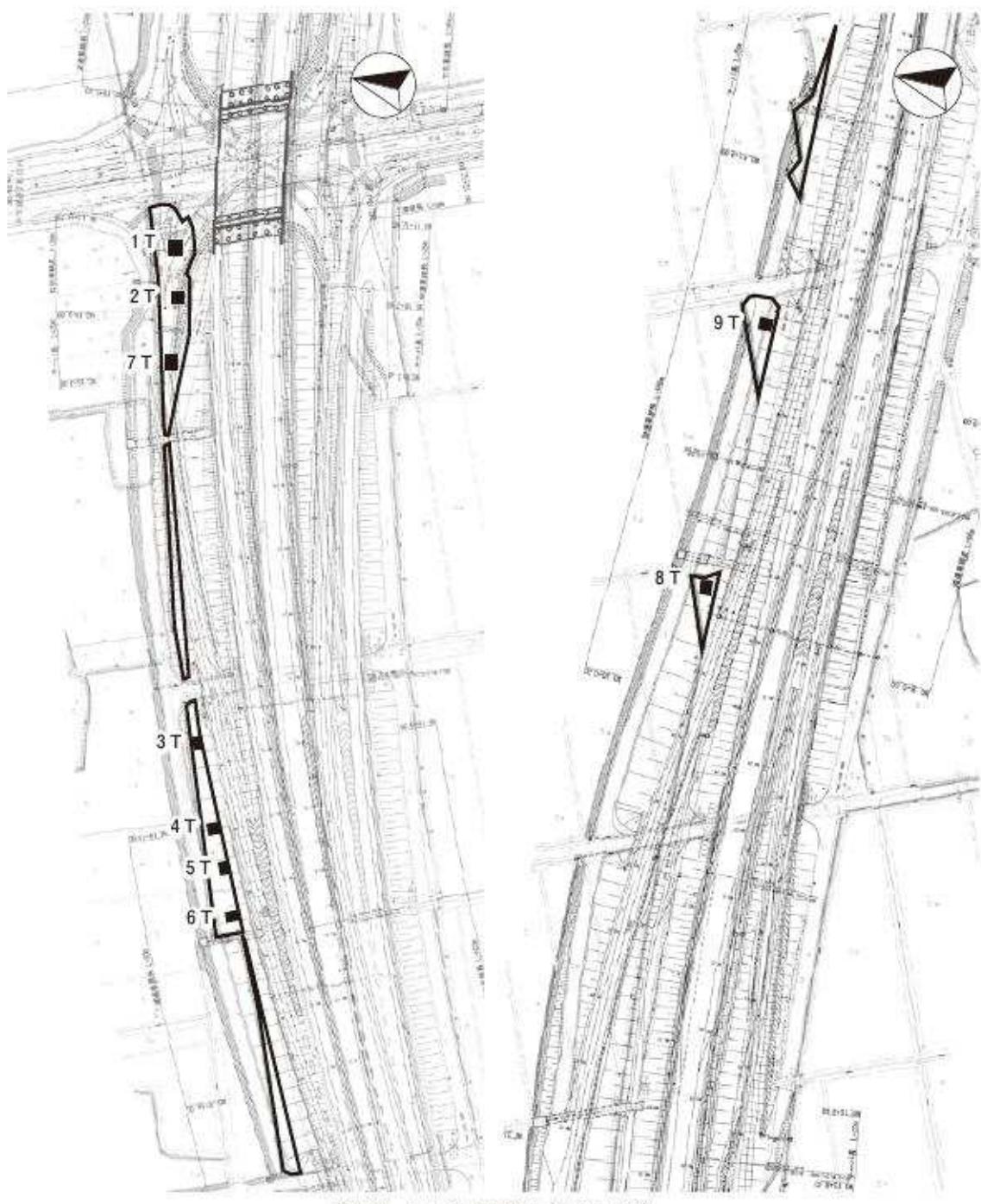


第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院発行 平成17年「新潟」平成15年「新発田」1:50,000原図)



第2図 土層柱状図 (1:40)

◎ = 遺構検出層



第3図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第4図 3T全景 (東から)



第5図 3T土層堆積断面 (東から)

3 一般国道7号紫竹山道路・栗の木道路関係

新潟市中央区紫竹山三丁目・西馬越～鎧三丁目間試掘調査

(1) 立地

新潟砂丘列新砂丘第Ⅱ列4（地点1）及び第Ⅲ列1付近（地点2）に位置する。現況は更地であるが、以前は宅地であった。標高は0～1m前後である。

(2) 調査の概要

本事業地においては平成23年度から試掘調査を継続している。本年度は、用地買収の完了した範囲を対象として、地点1に2か所（1T・2T）、地点2に1か所（3T）のトレンチを設定した。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「新潟」1:50,000原図 平成17年発行)

(3) 層序

各トレンチで砂丘表土層を検出した。1Tにおいては、砂丘層より上位の層序も隣接する平成23年度のトレンチと対応するはずであるが、荒天により土質の確認が困難であったため層名は一致させていない。

ア 1T・2T

0層 盛土。

1層 黒色シルト層 (10Y2/1)。炭・木片を含む。

II層 シルト・砂混合層 (10Y3/2)。

III層 灰色シルト層。

IV層 ガツボ層。

V層 褐色砂層 (10Y4/4)。砂丘表土層であり、平成23年度のIV層に対応する。2Tではやや色調が暗いが、層順から同一層と捉えた。

イ 3T

0層 盛土。

1層 褐色砂層 (10Y4/4)。宅地造成時の盛土か。

II層 オリーブ褐色砂層 (2.5Y4/3)。酸化鉄をラミナ状に含む。

III層 オリーブ黒粘質土層 (5Y3/2)。酸化した植物茎を含む。

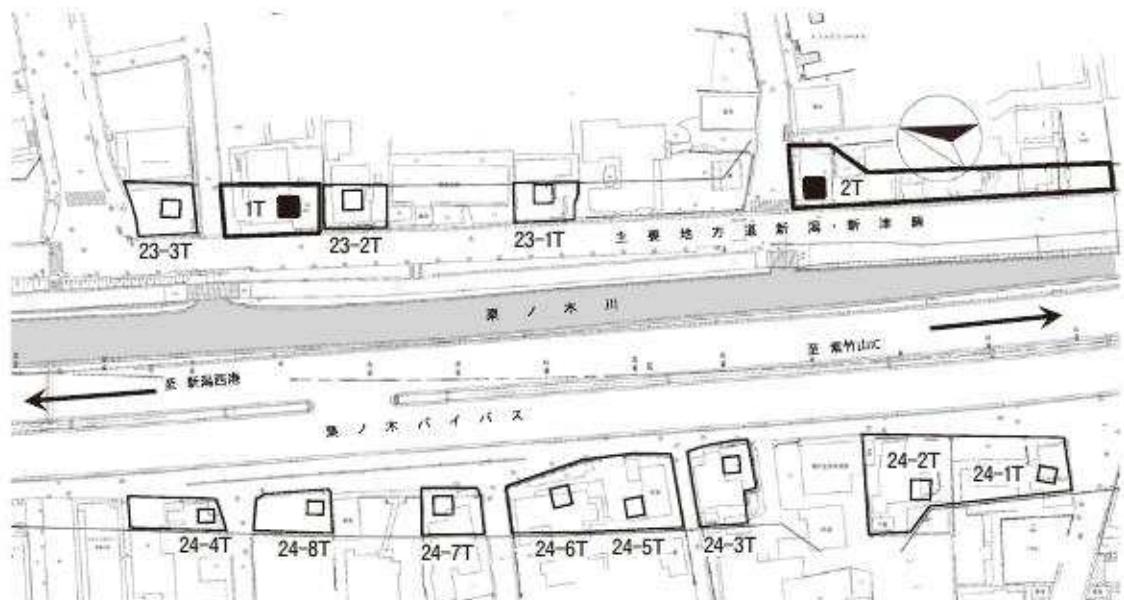
IV層 オリーブ褐色砂層 (2.5Y4/3)。砂丘表土層と考えられる

(4) 遺構・遺物

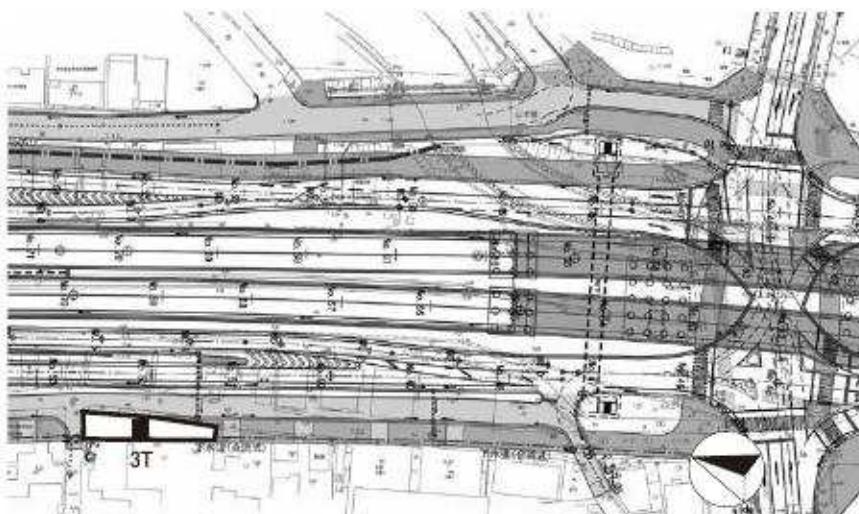
なし。

(5) 調査結果と取扱い

地点1では、平成23年度の調査〔財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2012〕を合わせると新砂丘第Ⅱ列4の起伏がかなり明確になった。1Tは砂丘の頂点よりやや北側、2Tは南側の裾に当たると考えられる。遺跡の存在する可能性の高い南側斜面が未調査であることから、今後も試掘調査が必要である。地点2では、3Tにおいて新砂丘第Ⅲ列1が確認され、今後の基準となるデータが得られた。いずれも今回の試掘調査範囲では遺構・遺物は検出されなかったため、本発掘調査は不要である。



第2図 地点1 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



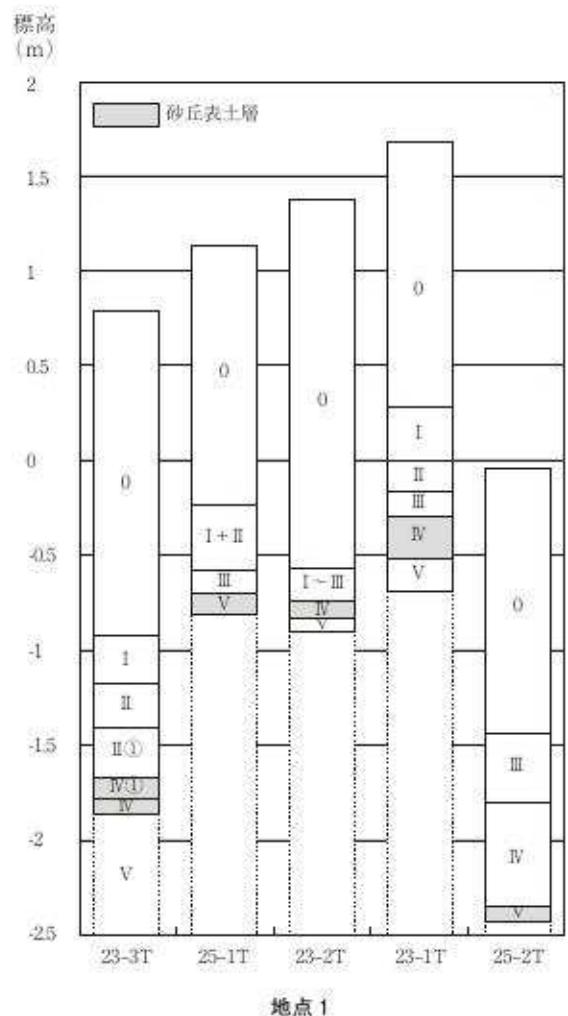
第3図 地点2 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



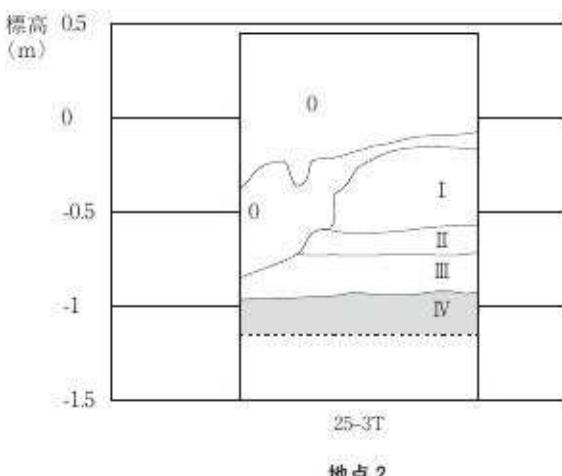
第4図 1T土層堆積断面 (南から)



第5図 2T土層堆積断面 (南から)



第6図 3T 土層堆積断面（南から）



第7図 土層柱状図 (1:40)

※平成23年度と25年度の層名は一致しない。

4 一般国道49号阿賀野バイパス関係

つさき 阿賀野市月崎地区試掘・確認調査

(1) 立地

阿賀野川右岸の自然堤防上に位置する。現地表面の標高は8m前後である。

(2) 調査の概要

一般国道49号阿賀野バイパス建設工事に伴い、JR羽越線下に地下歩道工事が予定されているが、その接続部分で試掘確認調査を実施し、遺構・遺物に有無を判断することとした。JR羽越線を基点に、南東側をA区、北西側をB区とした。A区は周知外、B区は山口野中遺跡の範囲内に当たる。

(3) 層序

0層 盛土。

I層 暗褐色土（旧表土）。

II層 にぶい黄褐色粘質シルト（遺物包含層・遺構確認面）。

III層 にぶい黄褐色砂質シルト。

IV層 にぶい黄褐色砂層。

V層 にぶい青灰色砂層。

(4) 遺構

A区ではII層でピット2基、土坑・井戸・性格不明遺構を各1基、溝4条を検出した。このうち覆土の様相や出土遺物から、溝を除く各遺構は中世の所産と判断した。井戸は直径2m程で、確認面からの深さは約80cmである。素掘りの井戸で、底面はやや凹凸が確認できる。性格不明遺構は井戸と重複しており、現代の搅乱が加わるなど残存状況は不良であった。直径2m以上で、確認面からの深さは約35cmである。

B区ではピット5基のほか、調査区を横断する溝と、その覆土中から土坑1基を検出した。このうち覆土からピットは覆土の様相から中世、溝と土坑は近世以降の所産と判断した。ピットのうちP4は、平面形が小判形を呈し、覆土下層には泥炭土が堆積するなどの特徴がある。

(5) 遺物

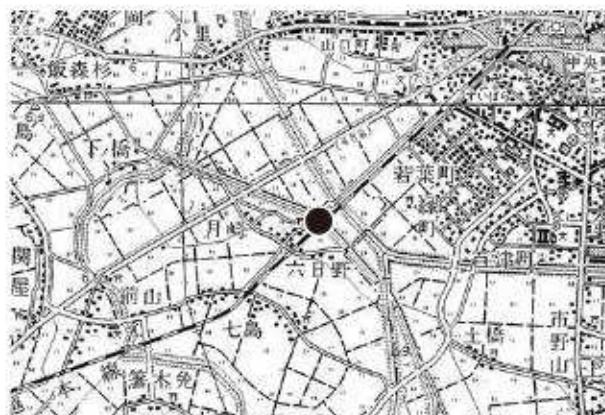
A区では井戸から土師器皿と珠洲焼鉢が、性格不明遺構からは残存率の高い土師器皿が出土した。いずれも中世所産である。B区では近世以降と判断した土坑から珠洲焼が多数出土した。

なお、両区共にII層の調査終了後に深掘りを行い、下層での遺跡の有無を確認した。隣接する山口野中遺跡の状況を加味し、標高6m以下まで掘り下げ、主に縄文時代等の遺跡の有無について調査を行ったが、検出されなかった。

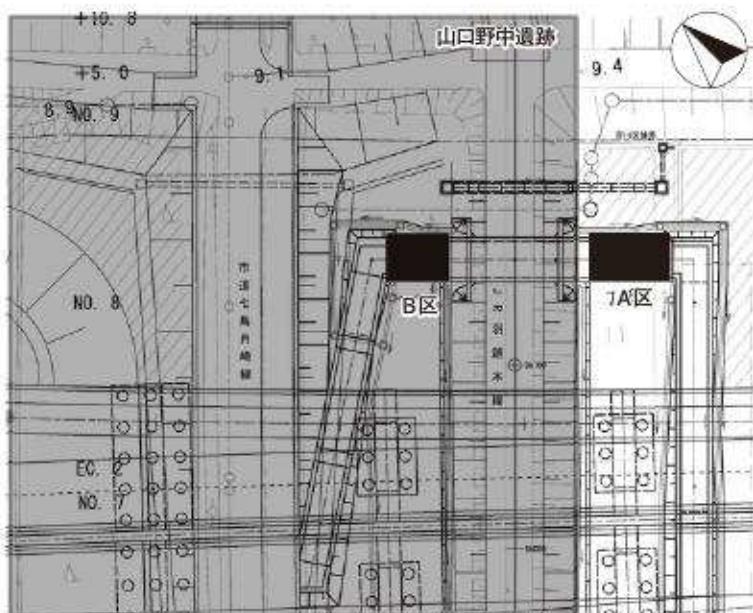
(6) 調査結果と取扱い

両区共に中世の遺構・遺物を検出した。A区は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったことから、山口野中遺跡の一部と捉え、範囲を拡大した。

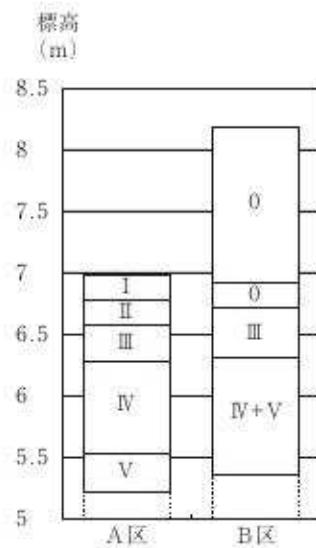
今回の調査面積は狭小な事業予定地内の90%程に当たる。事業予定地内の情報が全て得られたことから、本発掘調査は不要である。



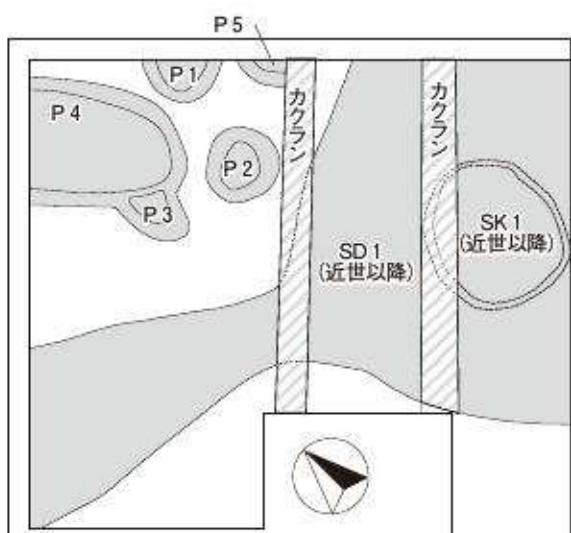
第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院 平成9年「新津」平成17年「新潟」1:50,000原図)



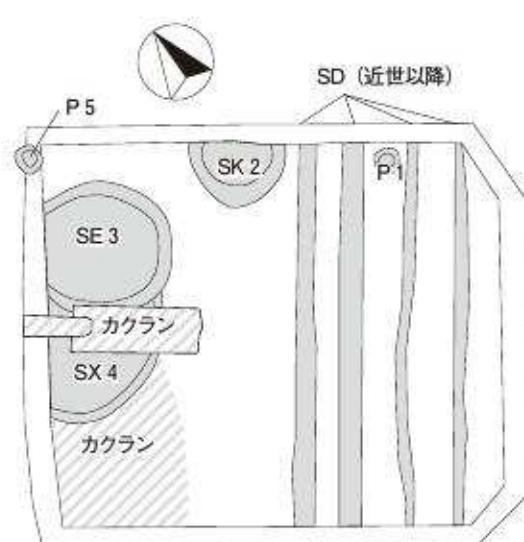
第2図 トレンチ位置図 (1 : 800)



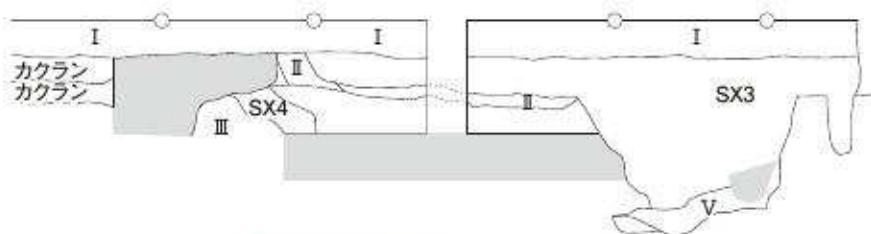
第3図 土層柱状図 (1 : 60)



第4図 遺構平面図 (B区) (1 : 100)



第5図 遺構平面図 (A区) (1 : 100)



第6図 A区北西壁セクション (1 : 50)



第7図 A区全景（南東から）



第8図 B区全景（北東から）



第9図 A区土層堆積断面図（南西から）



第10図 P4土層堆積断面図（南東から）



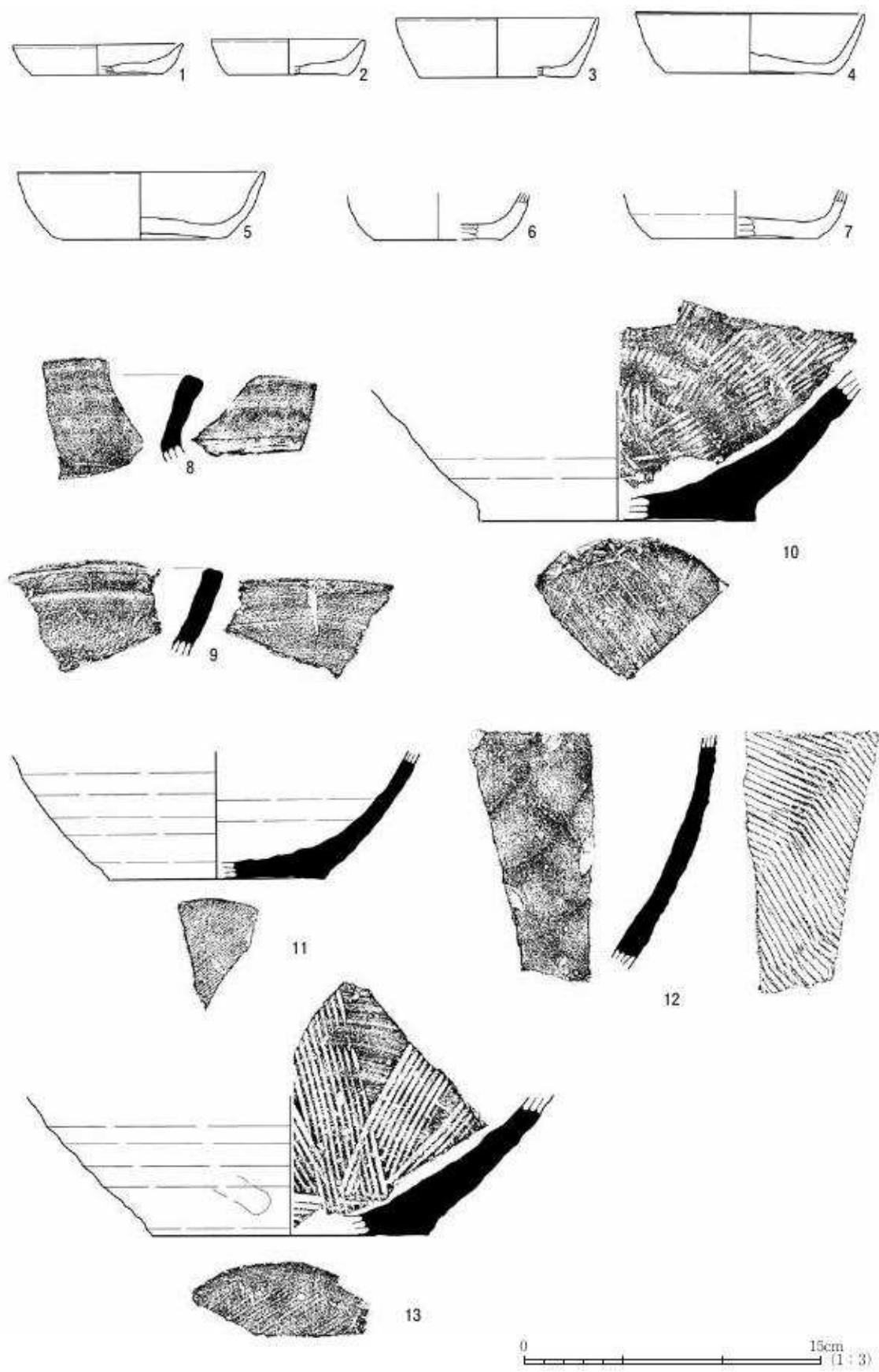
第11図 B区土層堆積断面図（北東から）



第12図 出土遺物（1）



第13図 出土遺物（2）



第14図 出土遺物

5 一般国道116号法花堂自転車歩行者道整備関係

ほっけどう 燕市吉田法花堂地区試掘調査

(1) 立地

西川右岸に発達した自然堤防の後背地。標高は7.8m前後である。

(2) 調査の概要

自転車歩行者道が設置される範囲に7か所のトレンチを設定した。

(3) 層序

0層 盛土。

1層 青灰色シルト層。3・4Tで近世以降の陶磁器片を出土。4Tでは以下のように細分する。

I①層 やや砂質強い。

I②・③層 ②層は③層よりやや色調暗い。

II層 灰褐色シルト層。腐食した植物を少量含む。6Tで近世以降の陶磁器片を出土。以下のように細分した。

II①層 I層との漸移層。

II②層 やや茶色味が強い。

II③層 炭を少量含む。

(4) 遺構・遺物

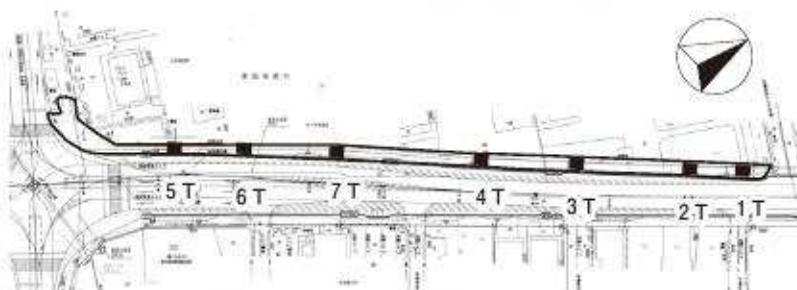
なし。

(5) 調査結果と取扱い

今回の調査対象地は自転車歩行者道であるため工事に伴い掘削が及ぶ深度までを調査したが、中世以前の遺構・遺物は検出されなかった。よって、今回の対象地における本発掘調査は不要である。



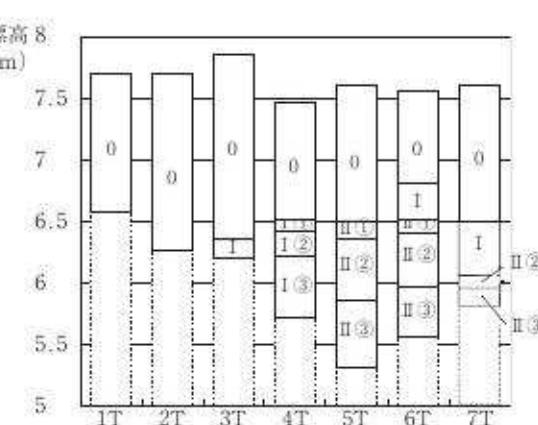
第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「新第三期」1:50,000原図 平成15年発行)



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



第3図 7T土層堆積断面 (北から)



第4図 土層柱状図 (1 : 60)

6 一般国道49号揚川改良関係

おおまき 阿賀町大牧地区試掘調査

(1) 立地

阿賀野川右岸に面する平坦地で、標高は55m前後である。

(2) 調査の概要

車両の回転場が設置される範囲に1か所のトレーニングを設定した。

(3) 層序

I層 黄褐色砂質土。

II層 黄褐色砂質土。拳大の礫を混入する。

III層 暗褐色土。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査結果と取扱い

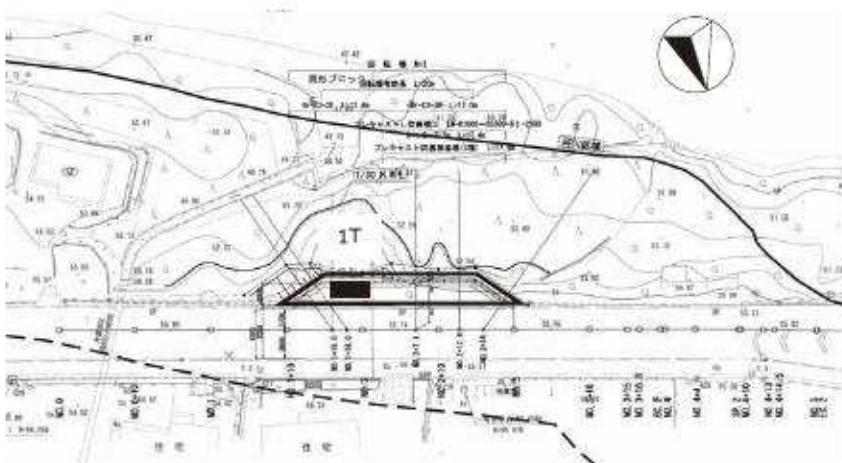
掘削最深部(III層)に至るまで、現代のコンクリート片・ガラス片等が混入していた。調査対象地周辺は阿賀野川へ向けて舌状に張り出した平坦部を形成しているが、今回の結果から、工事に伴う土砂等の搬出によって形成されたものと捉えられる。よって、今回の対象地における本発掘調査は不要である。



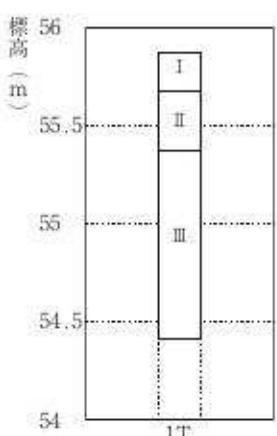
第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「津川」1:50,000原図 平成11年発行)



第2図 1T全景 (南東から)



第3図 トレーニング位置図 (1:1,000)



第4図 土層柱状図 (1:40)

7 一般国道8号柏崎バイパス関係

いばらめ 柏崎市茨目地区試掘調査

(1) 立地と調査の概要

柏崎平野東部の鶴石川の左岸に広がる沖積地にあり、現在の標高は6.5~7.5m前後で、現況は水田及び宅地盛土である。S T A №215付近から№233付近を対象に21か所のトレンチを設定した。

(2) 層序

0層 現代の水田（宅地造成直前の水田を含む）、表土、盛土を一括した。遺物を含まない。

I層 灰色シルト層 (7.5Y4/1)。酸化して褐色を帯びる箇所もある。II層との境が明瞭で、圃場整備による水田と思われる。近現代から一部中世の遺物を含む。わずかな色調の違いで分層できる場合はa・bとした。

II層 中世の遺物包含層及び遺構確認面。

II①層 12・19・20Tにのみ残存する。中世の遺物包含層である。

II②層 灰色シルト層 (10Y6/1)。酸化して褐色を帯びる箇所がある。中世の遺構確認面である。平成24年度試掘調査（宝田～茨目地区）のIV層に類似する。

III層 II層以下のシルト層を一括する。地形の違いから、1~10T (III①~⑥)、12~20T (III⑦~⑪)、13~19T (III⑫~⑯) で堆積状況がやや異なる。

III①層 灰色シルト層 (10Y4/1)。酸化鉄を少量含む。

III②層 灰色シルト層 (10Y4/1)。灰色粘土粒子を少量含む。やや水分が乏しい。

III③層 灰色シルト層 (10Y4/1)。灰色粘土粒子を少量含む。

III④層 灰色シルト層 (10Y4/1)。灰色粘土粒子を少量含む。酸化鉄を多く含む。

III⑤層 灰色砂層 (10Y5/1)。

III⑥層 オリーブ黒シルト層 (10Y3/1)。褐色砂質土との互層をなす。

III⑦層 灰色シルト層 (7.5Y4/1)。やや明るい色調のシルト粒子をまだらに含む。炭化物を少量含む。

III⑧層 オリーブ黒シルト層 (7.5Y3/1)。含有物は同上でやや砂っぽい。

III⑨層 オリーブ黒シルト層 (10Y3/1)。白色の軽石と生木を多く含む。やや砂っぽい。

III⑩層 灰色シルト層 (10Y4/1)。炭化物・生木を多く含む。

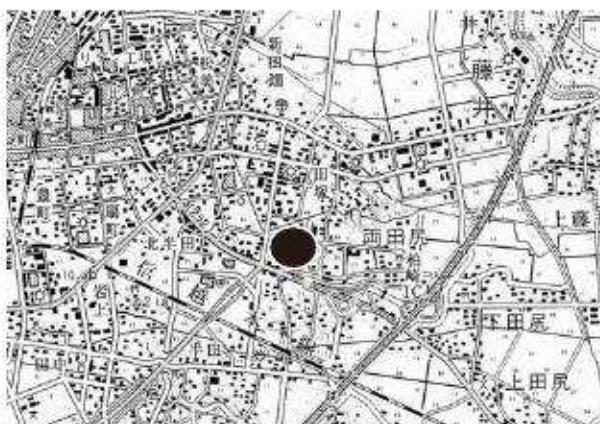
III⑪層 オリーブ黒シルト層 (7.5Y3/2)。ガツボを多く含む。

III⑫層 緑灰シルト層 (7.5G Y6/1)。含有物少ない。

III⑬層 浅黄シルト層 (7.5Y7/3)。植物茎に由来する酸化鉄を多量に含む。やや水分が乏しい。

III⑭層 灰白シルト層 (10Y7/1)。上層より粘性高く、酸化鉄やや少ない。

III⑮層 灰シルト層 (10Y6/1)。粒子やや粗く水分多く含む。含有物は少ない。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「柏崎」1:50,000原図 平成19年発行)

III⑯層 灰白シルト層 (10Y7/1)。粘性高い。含有物は少ない。

III⑰層 オリーブ黒シルト層 (10Y3/1)。がツボを多量に含む。しまりあり。

各トレンチの遺物包含層・遺構確認面 (II層) の高さを比較すると、調査区北側 (1 ~ 8T付近) と南側 (14・15・17・19・21T付近) の2か所に高まりが認められ、中央の低地を挟んで南北に微高地が対峙する旧地形が復元できる。前者の高まりは、北側の丘江遺跡から連続する微高地の縁辺と捉えられる。

(3) 遺構

遺構はすべてII②層の上面で検出した。

調査区北側の微高地では、4Tを中心とした小穴・土坑を多数検出した。

調査区中央の低地では、不定形の落ち込みや流路らしき溝状遺構を検出した。11Tの北壁に接して検出された遺構は、水田跡の可能性がある。

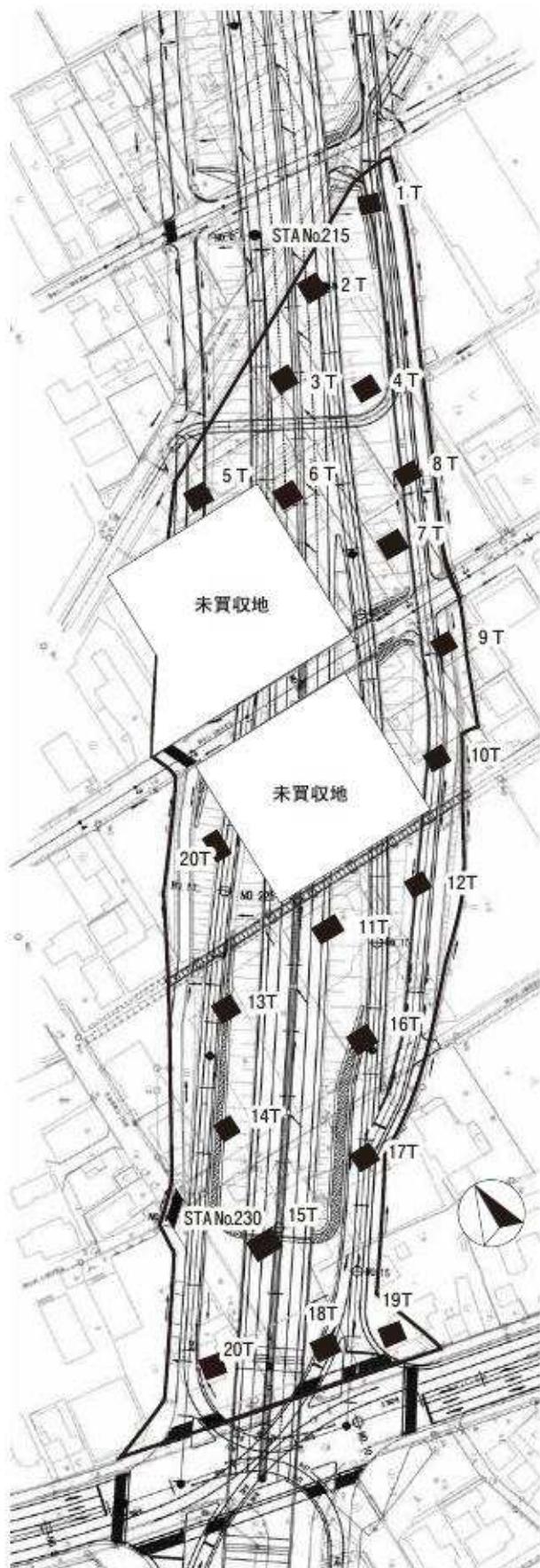
調査区南側の微高地では、14Tで小穴多数を検出した。また、19TでL字状に屈曲する溝を検出した。19T付近は調査区内で最も地形が高まっており、19Tから調査区外の東側にかけての範囲が調査区南側微高地の主たる生活領域と推定される。なお、18Tでは現代の土地利用(ガソリンスタンド)によって完全に搅乱されていた。

(4) 遺物

中世の遺物の大多数は、近世以降のものとともにI層から出土している。

II①層にも若干近世の陶磁器等が混じるもの、大きく乱された形跡がないことから中世を主体とする遺物包含層と捉えた。19TのII①層からは越中瀬戸広口壺が出土している。

遺構に伴うものとしては、4TのP1から土師器が、8TのP1から青磁が、10TのSX1から漆塗りの木製品(箸か)がそれぞれ1点出土した。木製品はほかに12TのI層から漆塗り



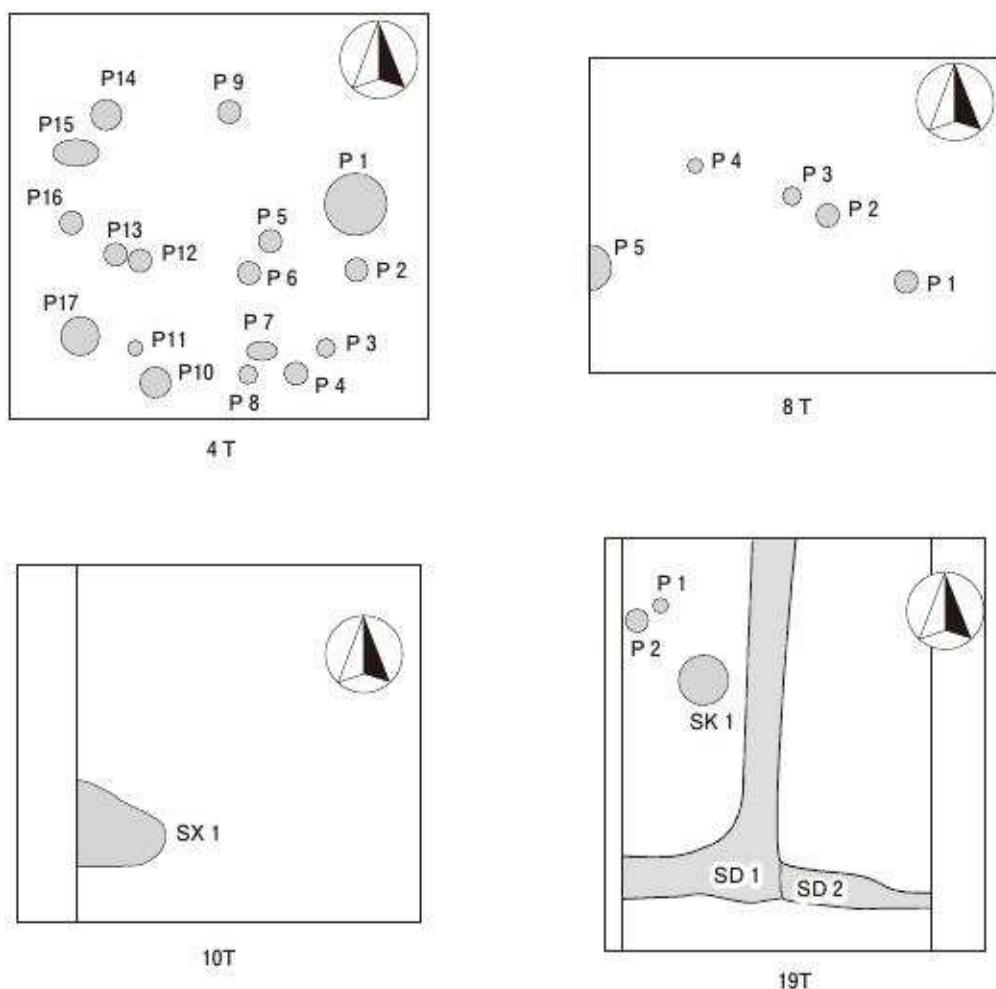
第2図 トレッセ位置図 (1 : 2,000)

の木製品（椀の蓋か）が出土した。

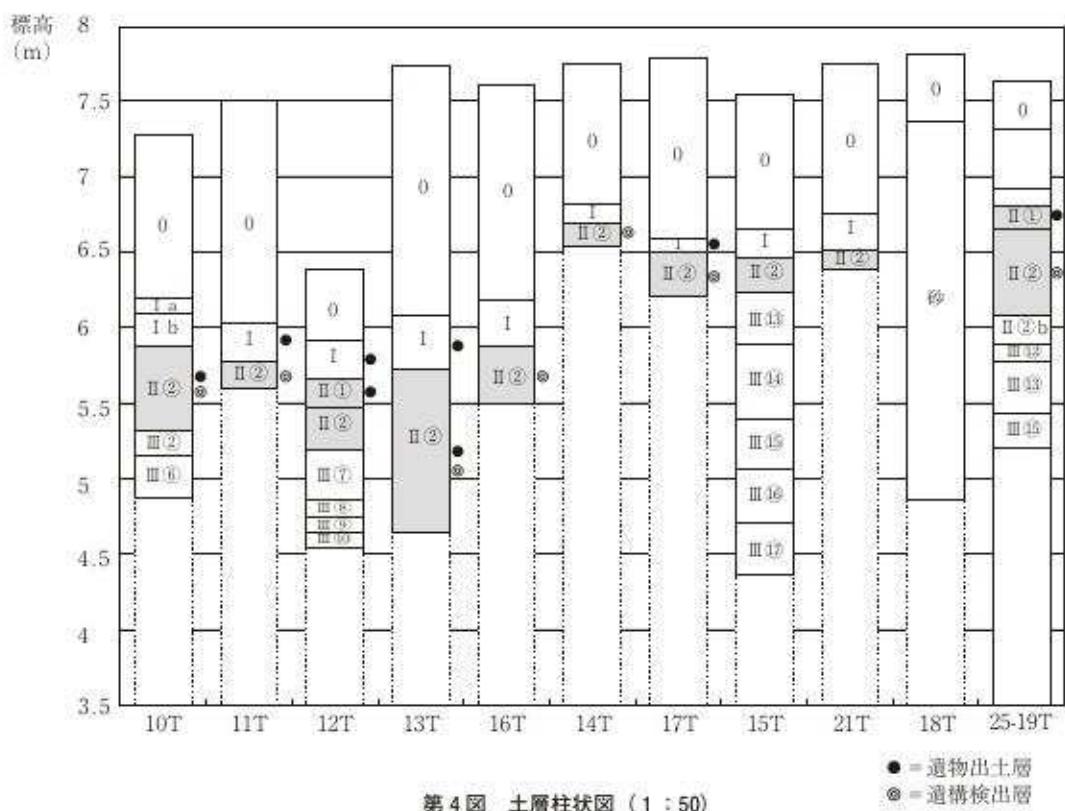
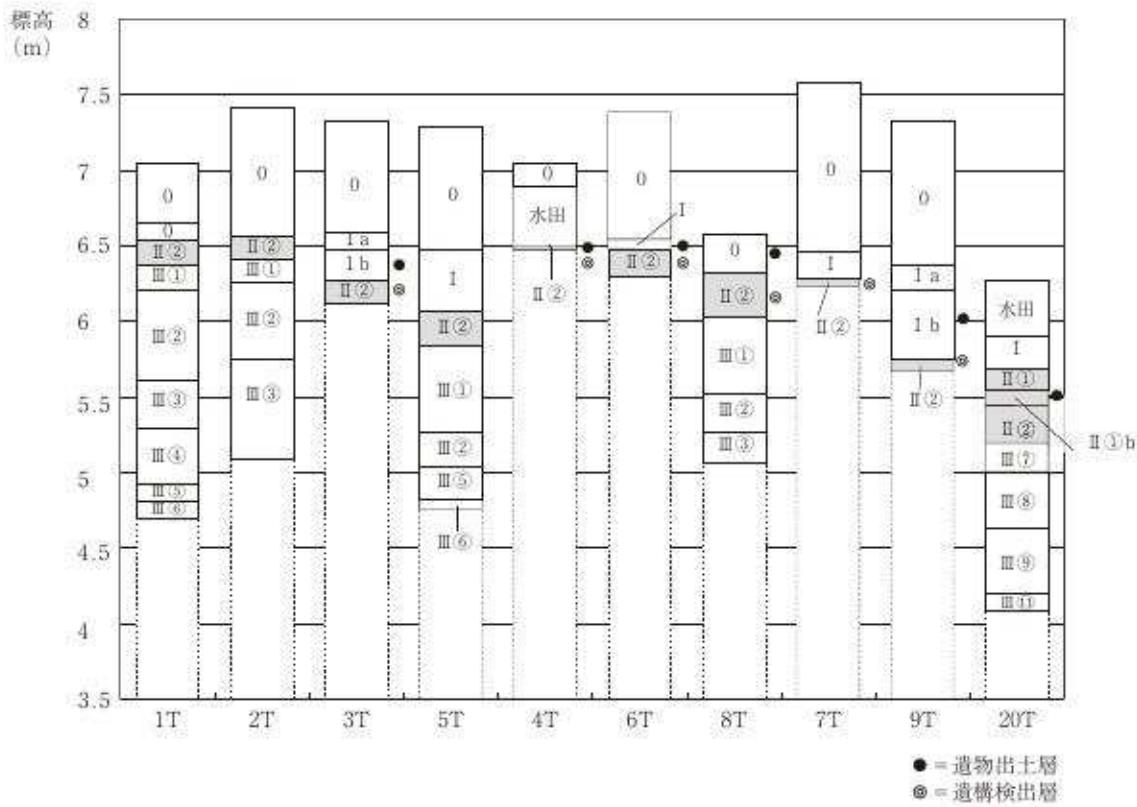
(5) 調査結果と取扱い

今年度調査区の様相は平成24年度試掘調査（宝田～茨目地区）における「ユニットA」〔財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2013〕に対比可能であり、丘江遺跡の一部と理解される。居住域は調査区南北の微高地上に展開し、中央の低地部は、11Tの様相から水田として利用された可能性が考えられる。

以上の結果から、遺構・遺物の確認されなかった15・18・21T付近を除く範囲で本発掘調査が必要と考えられる。ただし、調査区中央の低地部分については、遺物の分布がやや希薄であり、遺構も不明瞭であることから、未買収地の試掘調査の結果に基づき、本発掘調査の要否を再検討するものとする。



第3図 遺構平面図（1：100）



第4図 土層柱状図 (1 : 50)



第5図 4T全景（北から）



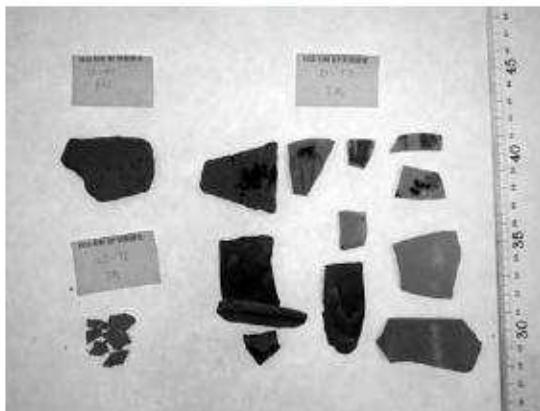
第6図 11T全景（南から）



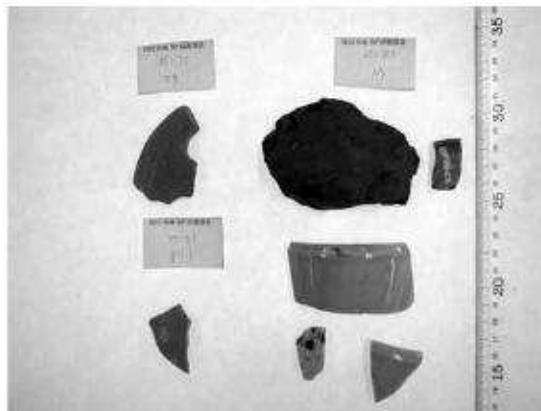
第7図 12T土層堆積断面（南から）



第8図 14T全景（南から）



第9図 4T～6T出土遺物



第10図 7T・8T出土遺物



第11図 13T出土遺物



第12図 10T出土遺物

8 一般国道7号石打自転車歩行者道関係

しもひといち 南魚沼市下一日市地区試掘調査

(1) 立地

魚野川左岸の低位段丘面に立地し、標高は215m前後である。

(2) 調査の概要

調査要望箇所のうち、今年度に施工される480mの区間を対象に7か所のトレンチを設定して調査を行った。

(3) 層序

0層 工事に伴う盛土・砂利。

I層 灰褐色粘質土層等。現代の水田耕作による土層を一括する。

II層 灰褐色粘質土。3Tでのみ確認された（以下III・IV層とも）。4T～7Tの1層と同一層の可能性もある。

III層 灰色粘質土。

IV層 暗灰色粘質土。人頭大の礫をまばらに含む。

V層 砂利層・礫層を一括する。

(4) 遺構・遺物

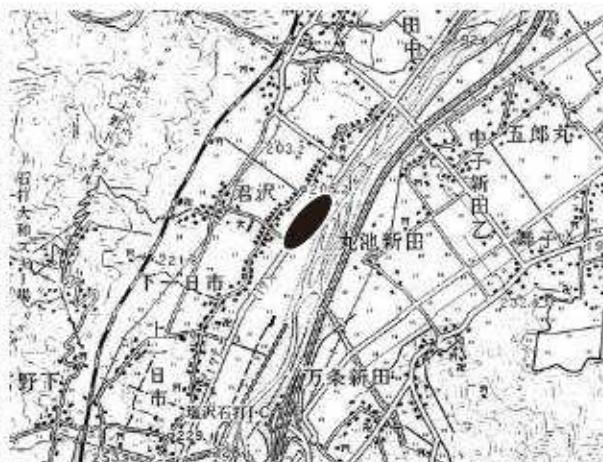
なし。

(5) 調査結果と取扱い

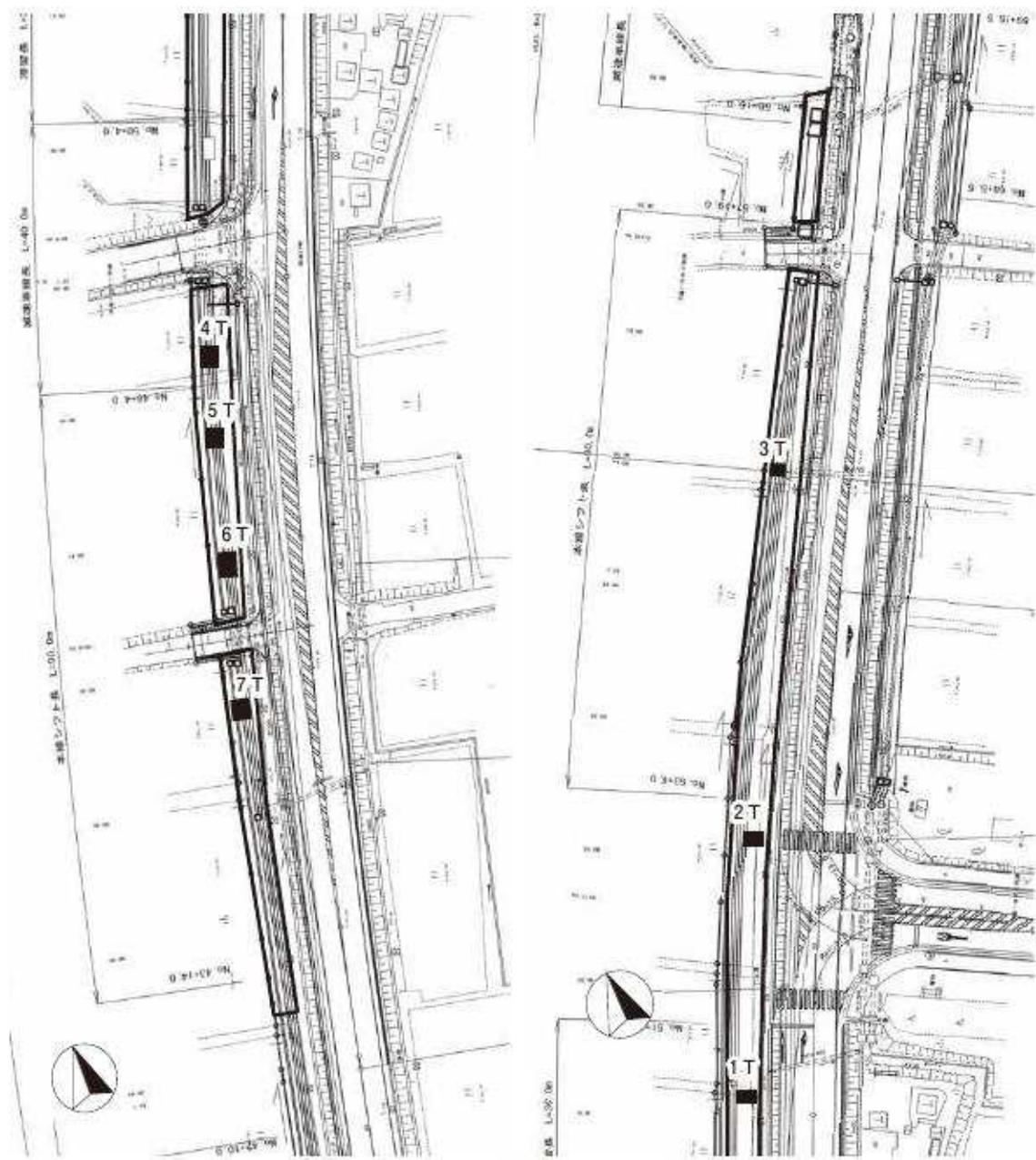
調査の結果、3Tを除く6か所のトレンチは盛土・耕作土の直下に礫層が堆積しており、水田開発が行われる以前は魚野川の氾濫原であったと考えられる。これに対し3Tで現地表下2mまで土壤の堆積が認められた。今回の調査では遺構・遺物は発見されなかったため、対象地における本発掘調査は不要である。ただし、3Tの様相から周辺に遺跡が存在する可能性もあるため、今回の対象地以外の施工範囲については今後も試掘調査によって遺跡の有無を判断していくこととする。



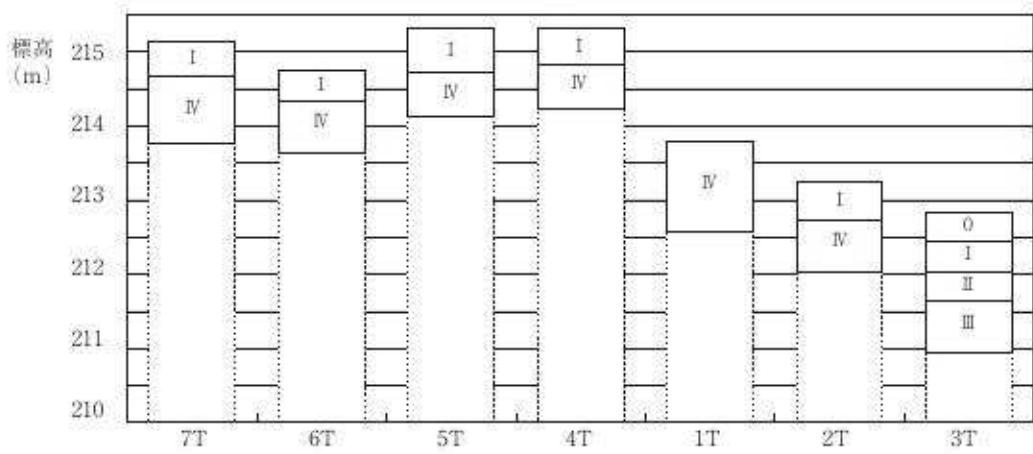
第1図 3T土層堆積断面図（西から）



第2図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院発行 平成10年「十日町」平成7年「越後湯沢」1:50,000原図)



第3図 トレンチ位置図 (1 : 1,000)



第4図 土層柱状図 (1 : 100)

9 地域高規格道路上越三和道路関係

つるまち 上越市鶴町地区試掘調査

(1) 立地

高田平野の中央部、飯田川左岸の沖積地に位置する。現地表面の標高は13m前後である。

(2) 調査の概要

平成15年度の試掘調査で発見された清水田遺跡と下割遺跡間は、遺構が確認されなかったことから本発掘調査が不要と判断した。しかし、平成25年度に本発掘調査を実施した清水田遺跡では水田畦畔が確認され、本発掘調査不要と判断した区域に広がる可能性が出てきた。このため再度、東西に長い2本のトレシチを設定して試掘調査を実施し、遺構の有無を判断することとした。

(3) 層序

- I層 黒褐色粘土（現代の水田耕作土）。
- II層 青灰色粘土（近世以降の遺物包含層・耕作土）。
- III層 黒褐色粘土（中世の耕作土）。
- IV層 明青灰色粘土（基盤層）。

(4) 遺構

清水田遺跡で検出された中世の水田と同層位のIV層で遺構を確認した。1Tでは4本の小畦畔（疑似畦畔）と大畦畔の可能性がある高まりに加え、溝1条、掘込田の可能性がある落ち込み4面を検出した。2Tでは2本の小畦畔（疑似畦畔）と溝1条を検出した。

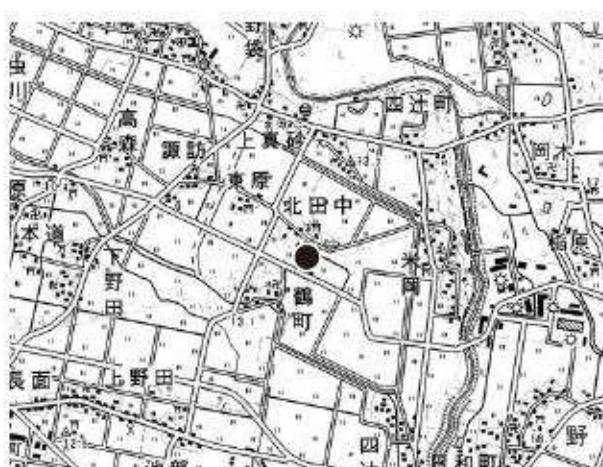
小畦畔は平面での検出ができず、いずれも断面で確認した。残存状況は良好とは言い難い。いずれも高さは10cm程度である。畦畔1～3の間隔はおおむね5～6mである。畦畔3の東側2.5～6.5mにはII層（近世の水田耕作土）を切る溝があることから、中世の畦畔が破壊された可能性もある。大畦畔の可能性がある高まりは1Tのほぼ中央で、IV層の標高が最も低くなる地点である。高さ約50cmで、IV層の青灰色粘土を基調としてIII層が若干混じることから人為的な構築物と判断した。調査区を拡張した結果、北東部にかけて盛土が低くなっていることが判明した。

1T・2Tで検出した溝は、形状・深さが類似することから同一の遺構である可能性が高い。溝は深さ約20cmで、覆土はIII層とIV層の混合層である。

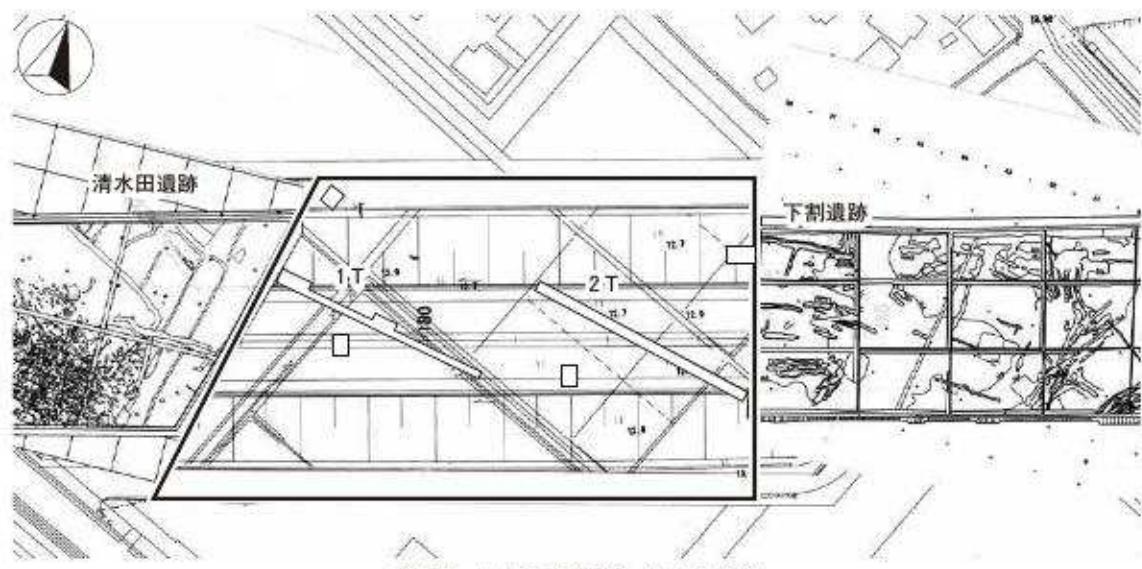
溝両脇には小畦畔4・5が位置する。

掘込田の可能性があるものは大畦畔の可能性がある高まりの両脇及び、最東部にある。調査範囲内では平面プランを確認できないが、方形・長方形状の可能性が想定される。

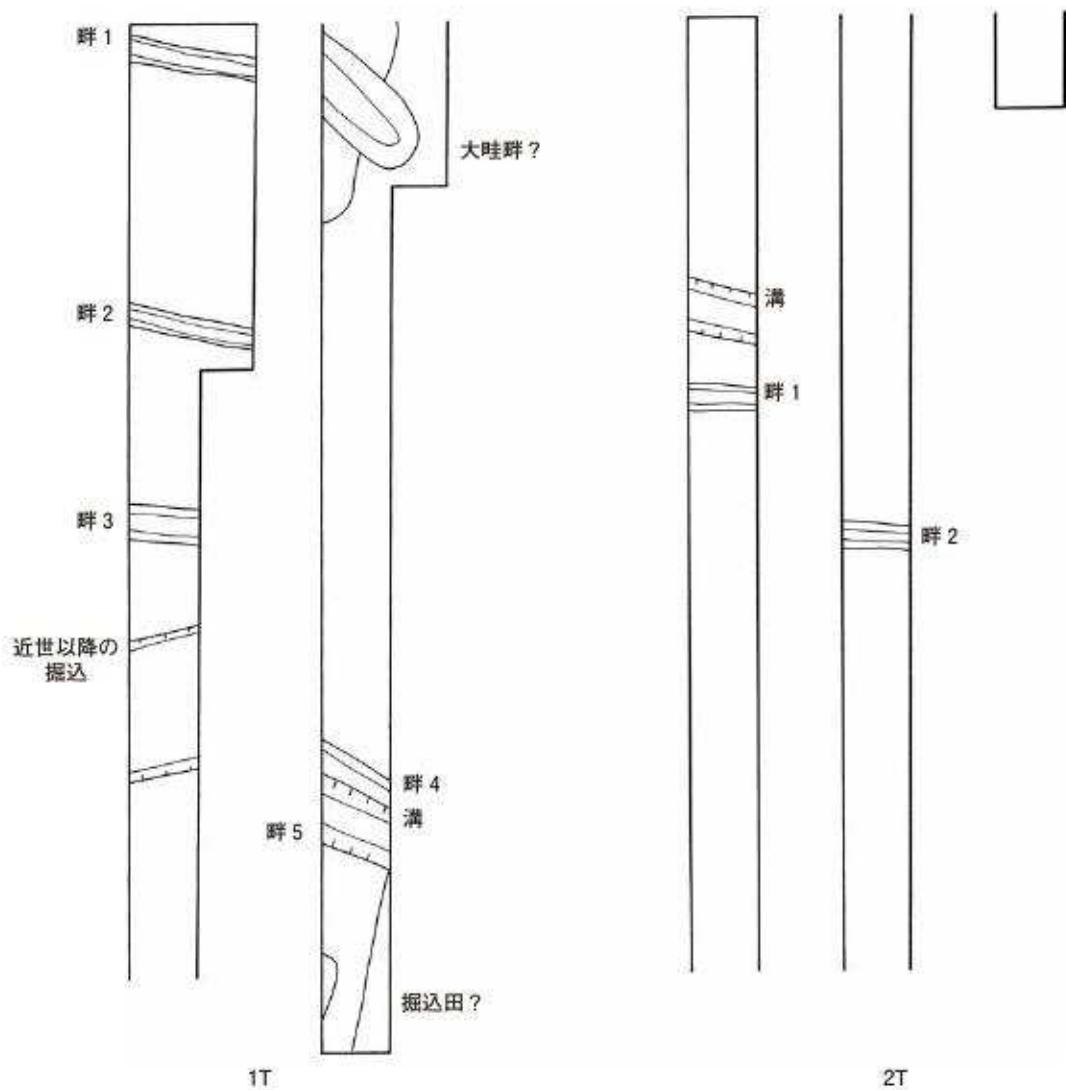
南西側を起点にIV層の標高を確認すると、最西部が標高12.4mと最も低く、東側に向けて高くなり、最東部では12.7mである。



第1図 位置図 (1:50,000)
(国土地理院「高田東部」1:50,000原図 平成19年発行)



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



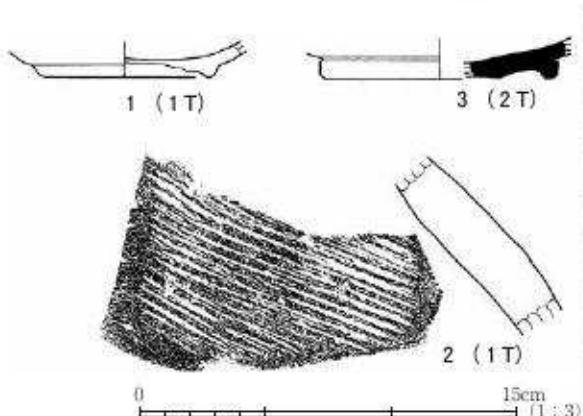
第3図 遺構平面図 (1 : 100)

(5) 遺物

1TのⅡ層で古銭・近世陶磁器、Ⅲ層で珠洲焼・越中瀬戸等を検出したが、数量は少ない。2TではI層で須恵器1点・近世陶磁器1点を検出したにとどまる。

(6) 調査結果と取扱い

1Tのほぼ全域及び2Tの西部で検出した畦畔等は、清水田遺跡から連続する遺構であり、2T最東部で検出した畠は、下割遺跡から続く水田の広がりと考えられる。このため今回の対象範囲まで、清水田遺跡と下割遺跡の範囲が、それぞれ拡大すると捉えた。本発掘調査の要否については、規格性のある区画や類似する構成・性格の遺構が連続しており、一部の遺構のあり方から全体が推定できること、検出した畦畔の残存状況が良好でないことを総合的に勘案した結果、不要と判断した。



第4図 出土遺物



第5図 1T全景(東から)



第6図 1T大対畦畔? (北から)



第7図 1T畦畔3 (北から)



第8図 1T溝断面 (東から)



第9図 1T最東部 (東から)

にしの
新潟市江南区西野地区試掘調査

(1) 立地

新潟砂丘列に挟まれた低地で、現況は水田である。標高は-1m前後である。

(2) 調査の概要

インターチェンジの設置に伴い、主として調整池となる範囲に23か所のトレンチを設定した。なお、対象地のうち日本海沿岸東北自動車道を挟んで北側は、隣接地で新潟市が実施した試掘調査において遺跡が存在しないことが判明したため調査を行わなかった。

(3) 層序

I層 現水田表層土。

II層 現水田床土。

III層 褐色の腐食した植物を多く含むいわゆるガツボ層。

IV層 灰色シルト層。ガツボを含む。V層との漸移層をIV'とした。

V層 褐色ガツボ層。III層より腐食植物を多く含む。VI層との漸移層をV'とした。

VI層 褐色シルト層。灰色シルトを層状に含む。ガツボを含む。銹臭い。

VII層 褐色ガツボ層。

(4) 遺構

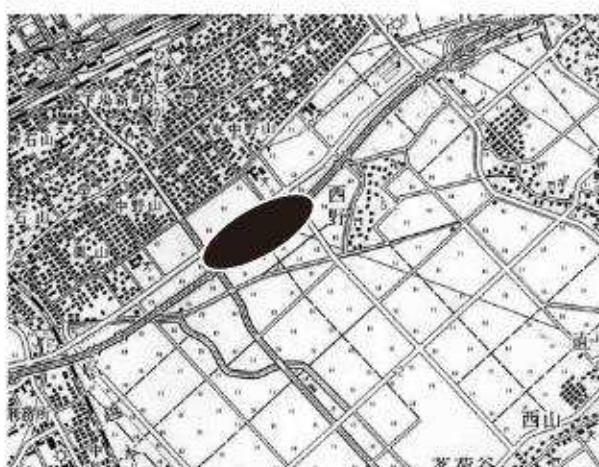
なし。

(5) 遺物

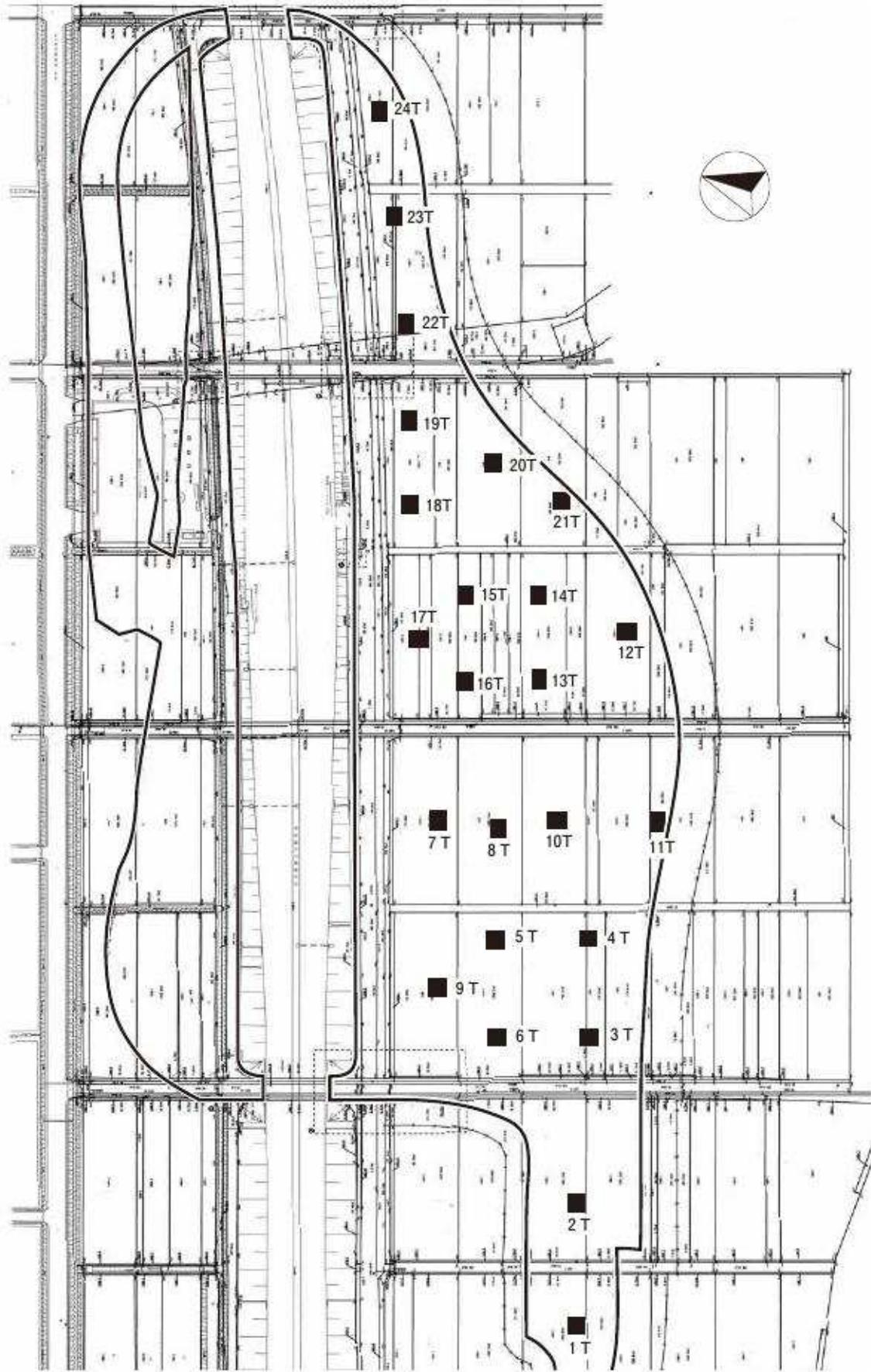
遺物は9・12・18TのII層から珠洲焼が各1点、18TのII層から越中瀬戸広口壺が1点出土した。

(6) 調査結果と取扱い

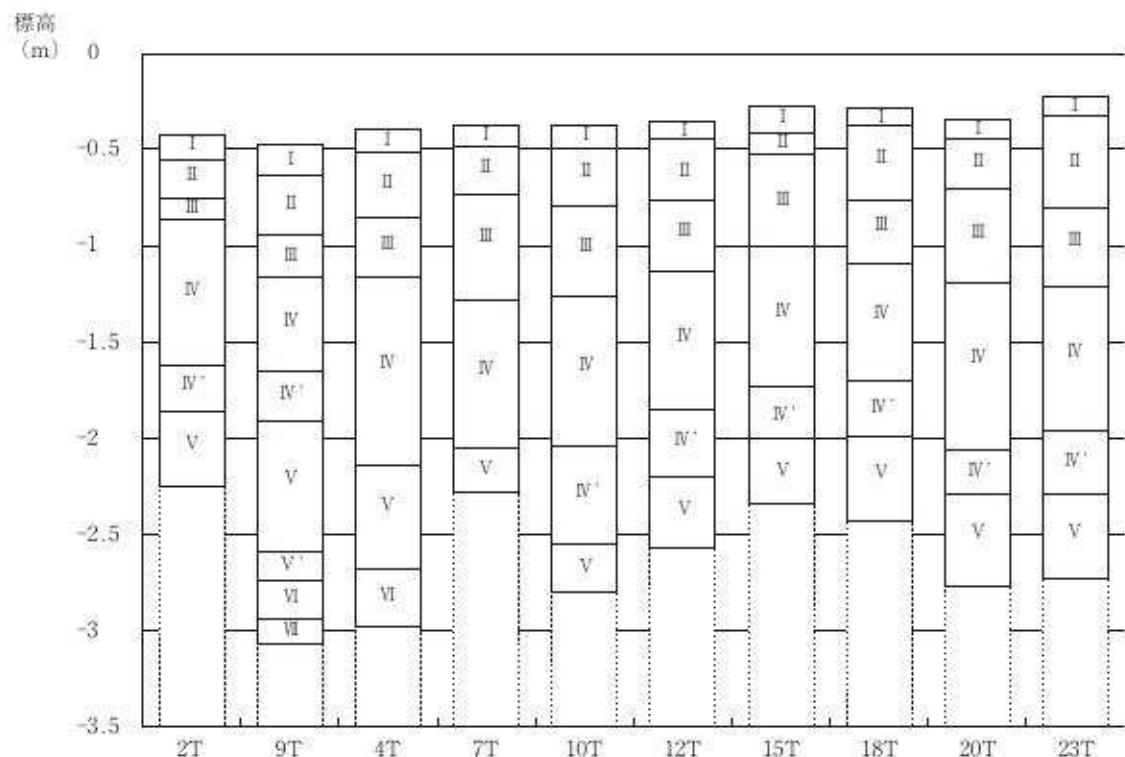
各トレンチとも、ガツボとシルト層が互層をなす一定した土層の堆積状況を呈しており、対象地の一带が水田の造成前は砂丘間の低湿地帯であったことを示している。遺物はいずれも近年のは場整備に伴う客土からの出土であり、対象地における遺跡の存在を示唆するものではない。よって、今回の対象地における本発掘調査は不要である。なお、客土からの出土である点に問題を残すものの、新潟平野における越中瀬戸広口壺の出土事例は僅少であり、注目される〔相羽2003〕。



第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「新潟」1:50,000原図 平成17年発行)



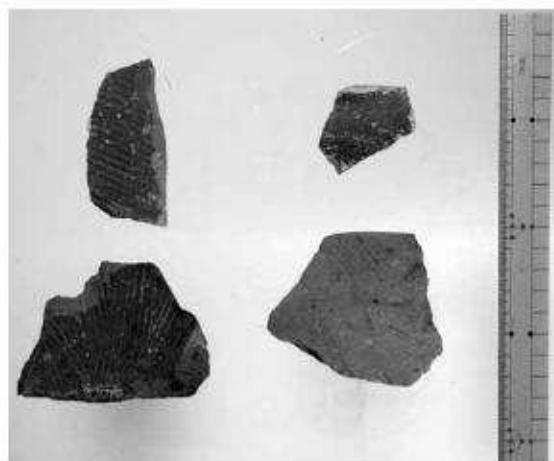
第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)



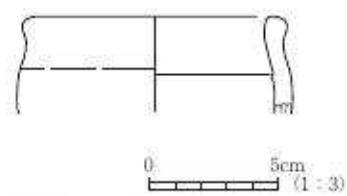
第3図 土層柱状図 (1 : 40)



第4図 10T土層堆積断面(南から)



第5図 出土遺物



第6図 出土遺物(越中瀬戸広口壺)

11 磐越自動車道付加車線施工関係

新潟市秋葉区下新地区試掘調査 しもしん

(1) 立地

阿賀野川（左岸）と早出川（右岸）の合流点に位置する。磐越自動車道の造成以前は畠地として利用されており、旧地表面の標高は10m前後である。

(2) 調査の概要

対象地は昭和62年の磐越自動車道建設時の分布調査において試掘調査不要とした箇所であるが、その後周辺で遺跡が発見された事例があることから、付加車線施工に伴い盛土される範囲に7か所のトレンチを設定して調査を行った。

(3) 層序

0層 盛土層。礫・砂利を多量に含む褐色土（0a層）と灰色の砂質シルト（0b層）からなる。0b層はビニール紐等の現代の遺物を少量含む。

1層 灰色砂質シルト層（7.5Y5/1）。酸化した植物茎を多く含む。しまりは弱い。0b層との境に褐鉄鉱の薄い層が認められる。

II層 にぶい黄褐色砂層（10YR5/4）。

III層 矶層。

(4) 遺構・遺物

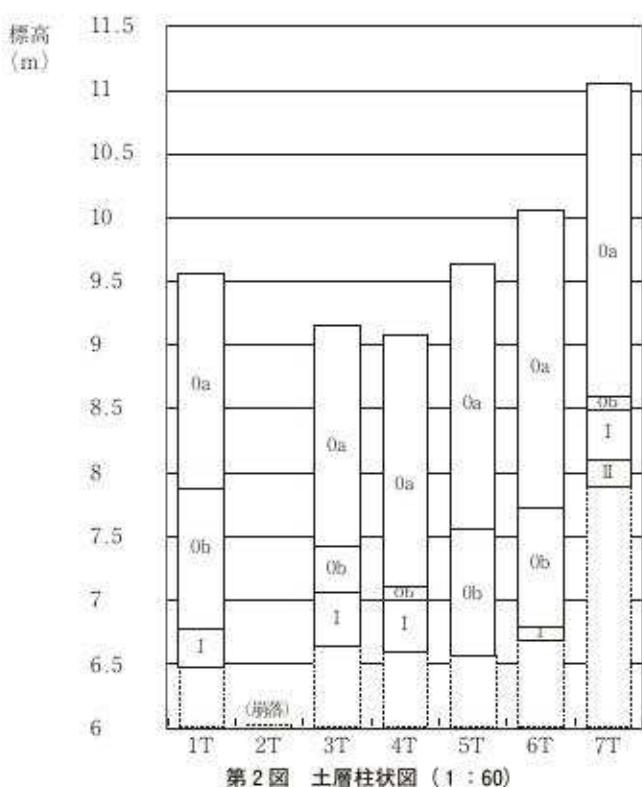
なし。

(5) 調査結果と取扱い

各トレンチの状況から、対象地周辺は阿賀野川・早出川の氾濫原であったと考えられ、遺跡が存在する可能性は低いことから、本発掘調査は不要である。



第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「新津」1:50,000原図 平成9年発行)



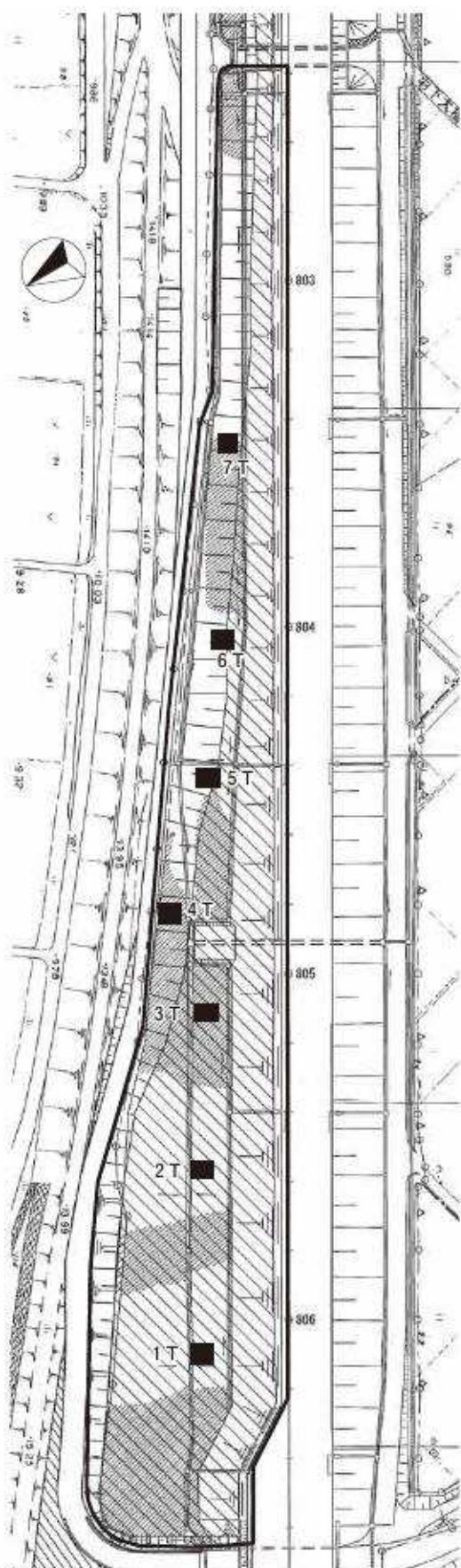
第2図 土層柱状図 (1 : 60)



第3図 3T土層堆積断面 (東から)



第4図 7T土層堆積断面 (東から)



第5図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)

12 磐越自動車道付加車線施工関係

いがしま 阿賀町五十島地区試掘調査

(1) 立地

五十母川左岸の低位段丘面。標高は40.5m前後である。

(2) 調査の概要

磐越自動車道付加車線施工に伴いP5・P6橋脚が設置される範囲にそれぞれ1か所のトレンチを設定した。なお、調査対象地周辺に遺跡が存在する可能性が極めて低いことがP6橋脚部に設定した1Tの調査で明らかとなつたため、P5橋脚部は調査を行わずに終了した。

(3) 層序

表層から約90cmまでを磐越道1期工事の際の盛土（0層）が覆い、その下層が五十母川を供給源とする拳大～人頭大の礫を多量に含む褐色土層（1層）となる。

(4) 遺構・遺物

なし。

(5) 調査結果と取扱い

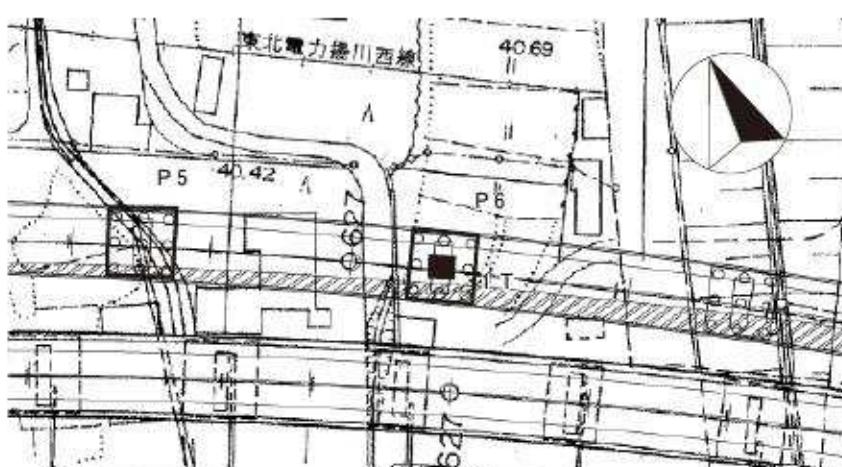
調査対象地と同一平面上には中世遺跡の馬乗馬場館跡が所在するが、調査の結果から、遺跡が存在する可能性のある範囲は対象地より丘陵側に限定されるものと結論付けられる。よって、今回の対象地における本発掘調査は不要である。



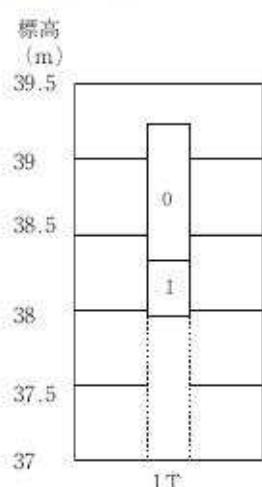
第1図 位置図 (1 : 50,000)
(国土地理院「津川」1:50,000原図 平成11年発行)



第2図 1T土層堆積断面(東から)



第3図 トレンチ位置図 (1 : 1,000)



第4図 土層柱状図 (1 : 50)

引用・参考文献

- 相羽重徳 2003 「越中瀬戸広口壺に関する素描—県内出土報告例から—」『研究紀要』4 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川日出志 1997 「4. 考察（1）土器の編年と地域的特色」『北越考古学第8号 新潟県北部地域における縄文時代後・晩期の研究—新発田市中野遺跡の共同資料調査—』 北越考古学研究会
- 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2012
『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成23年度』
- 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2013
『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成24年度』
- 高柳圭一 1988 「仙台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」『古代』85 早稲田大学考古学会
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2013
『カヤマチ遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第243集
- 新潟県朝日村教育委員会 2002
『元屋敷遺跡Ⅲ』朝日村文化財報告書 第23集

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうごねんとけんないいせきしづく・かくにんちょうさ							
書名	平成25年度県内遺跡試掘・確認調査							
副書名	県内遺跡発掘調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第255集							
編著者名	小野本敦・工藤祐大・滝沢規朗							
編集機関	新潟県教育委員会							
所在地	新潟県中央区新光町4番地1							
発行年月日	2014(平成26)年3月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大内澗 遺跡	関川村大字大内澗	155811	1	38度 04分 01秒	139度 35分 53秒	20130708～ 20131126	411.2	一般国道113号 鷹ノ巣道路 建設
山口野中 遺跡	阿賀野市月崎	152234	400	37度 49分 48秒	139度 12分 30秒	20131111～ 20131121	126.5	一般国道49号 阿賀野バイパス 建設
丘江遺跡	柏崎市茨目	152056	1010	37度 21分 52秒	138度 34分 58秒	20130725～ 20130809	605.5	一般国道8号 柏崎バイパス 建設
清水田 遺跡	上越市鶴町字清水田	152226	288	37度 7分 53秒	138度 78分 30秒	20131118～ 20131121	207	越域高規格道路 上越三和道路 建設
所収 遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大内澗 遺跡	遺物 包含地	縄文時代		縄文土器・石器				
山口野中 遺跡	遺物 包含地	中世	井戸1基	土師器・珠洲焼				
丘江遺跡	集落跡	中世	溝2条 水田遺構	土師器・珠洲焼・青磁・木製品(箸)				
清水田 遺跡	遺物 包含地	中世	溝1条 畦畔	須恵器・珠洲焼・越中瀬戸				
要約	道路事業に伴う試掘・確認調査を13か所で実施した。主な成果としては、関川村大内澗遺跡が縄文時代後期に位置付けられることが明らかになったほか、阿賀野市山口野中遺跡・柏崎市丘江遺跡・上越市清水田遺跡で遺跡の広がりを確認した。							

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 255 集

県内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成25年度県内遺跡試掘・確認調査

2014(平成26)年3月30日印刷 編集・発行 新潟県教育委員会
 2014(平成26)年3月31日発行 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
 電話 025(285)5511

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
 〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
 電話 025(233)0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第255集『平成25年度県内遺跡試掘・確認調査』 正誤表

2019年9月追加

頁	位置	誤	正
抄録	市町村コード	1 5 5 8 1 1	1 5 5 8 1
抄録	市町村コード	1 5 2 2 3 4	1 5 2 2 3
抄録	市町村コード	1 5 2 0 5 6	1 5 2 0 5
抄録	市町村コード	1 5 2 2 2 6	1 5 2 2 2
抄録	大内測遺跡 調査原因	一般国113号…	一般国道113号…
抄録	清水田遺跡 東経	1 3 8 度 7 8 分 3 0 秒	1 3 8 度 1 8 分 3 0 秒